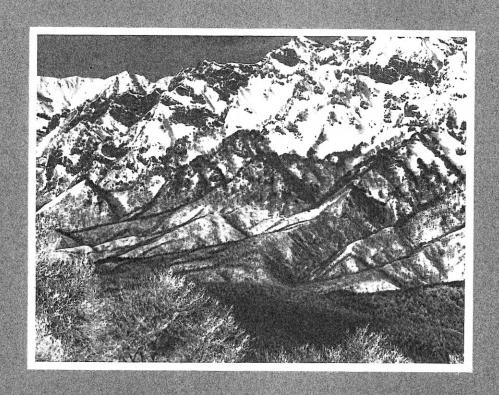
国民と森林

1984年·新春 第 7 号



国民森林会議

■野・明台の切め、日本を方へ?──最近は″緑ブーム″ですが。

画野 明治の初め、日本を訪れた外国人は 画野 明治の初め、日本を訪れた外国人は 画野 明治の初め、日本を訪れた外国人は 画野 明治の初め、日本を訪れた外国人は の自然が、大正・昭和・戦後の高度成長で をの自然が、大正・昭和・戦後の高度成長で での自然が、大正・昭和・戦後の高度成長で での自然が、大正・昭和・戦後の高度成長で での自然が、大正・昭和・戦後の高度成長で をの自然が、大正・昭和・戦後の高度成長で での自然が、大正・昭和・戦後の高度成長で をの自然が、大正・昭和・戦後の高度成長で をの自然が、大正・昭和・戦後の高度成長で をの自然が、大正・昭和・戦後の高度成長で を記述されても急が

壊することになる。は、自然と調和していくのでなく、自然を破は、自然と調和していくのでなく、自然を破ることを忘れた。当面の利益を追求する結果た傾向が強い。日本人は自然と調和して生き戦後おこなわれた開発事業も自然を無視し

きていく生物。いま、おこなわれている自然いだ。人間は、地球という自然のワク内で生いくは「自然を征服する」という言葉が嫌

世代は国土防衛の第一線

<團野信夫日本農研理事に聞く>

緑を見てきた。 は壊は、人間が自然に対する不遜な態度で、 は壊は、人間が自然に対する不遜な態度で、 はあうか。その極端な例が核エネルギーで、 大中の核を掘り出したのは科学の進歩だが、 土中の核を掘り出したのは科学の進歩だが、 土中の核を掘り出したのは科学の進歩だが、 といえる があったが、長い人類の歴史の中で発展といえる があうか。その極端な例が核エネルギーで、 といるようなものだ。

- 行きすぎた文明への反省が緑ブーム。

ったが、自然の輪廻 害をひき起している。ボクの友人の信州の詩 寄生物のようなものだ。 続けることをうまくいい現した詩だ。 し文明を築いたが、反面、 太陽エネルギーの貯金。それを科学は取り出 (間が食い/人間は土に還る」と謳 が「土を草が吸い ギー 專 野 を吸収した。 地球上にまず植物がでて、 (ね)の中で人間が生き / 草を牛が食い 一切の生物はその植物の 石油・石炭も植物の 人間が処理できぬ 太陽エネ (うた) /牛を

って根元的な生命を守る運動だと思う。はロマンチックな話でなく、人間の生活にと植物は食物と酸素の供給源。緑を守る運動

「農政記者の目」(たいまつ社)など多数。「農政記者の目」(たいまつ社)など多数。大阪本社社会部を経て日中戦争に従軍。大阪本社社会部を経て日中戦争に従軍。大阪本社社会部を経て日中戦争に従軍。大阪本社社会部を経て日中戦争に従軍。大阪本社社会部を経て日中戦争に従軍。大阪本社社会部を経て日中戦争に従軍。大阪本社社会部を経て日中戦争に従軍。

でいる。戦争の非人道性を示している例だが、 奪っただけでなく、 持った民族であった。 集団自殺を意味するだろう。 その極限が核戦争で、 作戦だろう。米軍の作戦はベトナムから緑を た。自然破壊・汚染に対する危機感の現われだ。 になり、 集団で入水していくように、 それをはっきり示したのはベトナムの枯葉 日 1本人は、 国民森林会議などの団体も多くでき 緑を守るのにふさわしい情緒を 多くの不倶の子供を産ん 増殖しすぎたネズミが 近年、 核戦争は人類の 国土緑化が盛ん

ますが。その運動は ――。 一すると緑への理解は深まっているといえ



季刊 国民と森林 No.7 1984年新春

巻頭イ	´ンタビュー	<團野信夫日本農研理事に聞く>	>
山木	†は国土防衛の	第一線	
写直	国民の森林を	老える関西シンポジウム	1

<特集> 国民の森林を考える関西シンポジウム 主催者あいさつ…7/実行委あいさつ…8/記念講演 (小原二郎)…8/パネラーの問題提起…12/討論…18/ 参加者の声…18/『木の文化アピール』…21 随想 廃屋の囁やき………… 小峰浩成…… 22 例会 森林保護と鳥獣保護は両立するか ………… 24 ブックレビュー 情熱かきたてられた"緑の文明論" 石田真夫..... 28 <部会報告のまとめ>Ⅱ 産業としての林業……… 半田良一部会長…… 30 切抜き森林・林政ジャーナル …………… 32 会員の出した本 …………………… 35

題字・隅谷三喜男会長 表紙写真:八木下 弘 カット・森前しげお

短

ていけるか考えるべき時です。

(文責編集部

表紙のことば-

運命の風景 / 秋田杉 / 巨樹の顔

「山岳林」

会の動き ………………………35

編集後記 …………………………………………35

国土の三分の二が森林で覆われているわが国は、 数字の上からはまさに森林国であろう。しかし、 大部分は急峻な山岳林で木材の生産量は少い。国 内の木材消費量の三分の二近くを外材に頼る一方、 森林の乱伐によって国土の荒廃が進んでいると指

狭い国土と過密な人口。そんな環境の中にあっ て人間の生活と、自然の調和をどう保っていけば いいのか。

(代表的な山岳林・戸隠山)

自己満足にすぎない。 荒らし、水を汚すことは本質的には枯葉作戦 生存に大事な水を奪うことにも通じる。 ダだと思っているが、山林を荒らすことは、 である山林を豊かに持つことは生存に欠くこ とのできぬ水を持つことだ。日本人は水はタ 本のようなモンスーン地帯で、天然の貯水地 ネルギーを受け止め自ら再生産している。日 緑を守ることを抽象的に叫んでも都会人の 条件が豊かに用意されている。山は太陽エ 逆に山林の多いことで生存のため 本列島は七割が山。平地が少ない 緑を守ってくれる人を

して山や山村を守るべきという観念に乏しい。 こに貧しい社会があるという程度で、 国民と いるからだ。日本人の山村への感じ方は、そ 識が興亡数千年の歴史の中で国民に定着して 0 が て、 の集落が消滅すれば、 過疎山村で集落移転がやられているが、奥 ?ある。 3 それはヨーロッパは山脈が国境であ 村を守ることが防衛であるという意 ッパは山村を守ることに国民的合意 次の集落が限界地と

続ける条件を国なり都市が与えることだ。 の住む山村を存続させることだ。 守ることが緑を守ることになる。 山村が生き 緑の守り手

行政は山村に都市文化を持ち込み、 がどんな関係を設定すれば未来へ生きつづけ ていたが、本当ですね。 に遅れているのでなく、進んだ文化」といっ 日本人が「日本の"木の文化』は"石の文化』 の教育は大切です。イタリーに永住している 告発できる権限をもたせている。少年の山へ うして国土が守れるのか。 ソ連などは少年森林隊が巡回して山荒らしを 学校の教科書から林業が消えた、と聞くが、 列島と一億余の人間

の文化を生かすことを考えねばならない。 期的な効率性から集落移転を考えるが、 土防衛の第一線から山村住民を撤退させてど Ш

木の文化

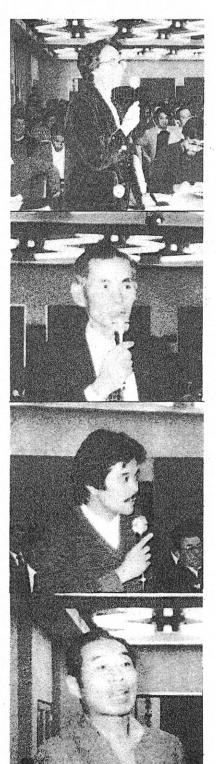


パネル討論

四〇〇人がぎっしり

ポジウムの役割を強調しました。 問題の解決を迫られている。天国を地獄にしない 切にしている。担い手、外材、外国での乱伐など ポジウムには関西を中心に四○○人の人たちが参 ため、お互い意見を出しあっていきたい」とシン のような国。しかし、イランの方がずっと緑を大 究所長)は「日本は緑豊かなコーランの説く天国 主催者を代表して大野盛雄幹事(東大東洋文化研 問題』への関心の深さをうかがわせました。 は主婦、学生、市民運動家などで、『森林・林業 合いました。参加者は、林業関係者が二割、 加「森林の再興は木の復権から」と熱っぽく語り 大阪市のコロナホテルで開かれました。このシン の文化 ― 』は、勤労感謝の日の十一月二十三日、 中川藤一氏(中川木材店社長)の司会で開会。 『国民の森林を考える関西シンポジウム ――木

緑ブームの側面をつき「便利さが古くからの生活 れはムード化して流れてしまう危険性もある」と が「緑という言葉がスローガン化しているが、こ のリズムを崩してきた。それを見直し、豊かな、 ついで実行委員会代表の半田良一京大農学部長



発言者



大野会長代理

半田実行委代表



実行委員会代表 半田

野村 医朗 中川 藤一 平田 善 ・

大の文化をつくり上げたい」と訴えました。 このあと記念講演、パネルディスカッションが をかもし出そう。都会と山村の議論の中から確か なものを選択してお互い手をとりあっていこう」 というアピールを採択して閉会しました。 というアピールを採択して閉会しました。 なお、当日会場で『国民と森林』が六〇冊、シ なお、当日会場で『国民と森林』が六〇冊、シ なお、当日会場で『国民と森林』が六〇冊、シ なお、当日会場で『国民と森林』が六〇冊、シ なお、当日会場で『国民と森林』が六〇冊、シ

"木の文化"にひたる一日



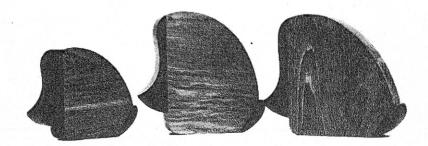
展示即売会も人の山



入場証も木の札で

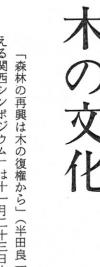


裏付けるような事実もありました。するなど、「木にふれたい」参加者の気持ちをれ、休憩時二十分の売り上げが二十万円を突破れ、休憩時二十分の売り上げが二十万円を突破れ、休憩時二十分の売り上げが二十万円を突破



国民の森林を考える関西シンポジウム

木の文化



える関西シンポジウム」は十一月二十三日大阪で開かれました。(グラビア参照 森林の再興は木の復権から」(半田良一実行委代表)をスローガンにした「国民の森林を考

天国を地獄にしない努力を 主催者あいさつ 大野盛雄

(会長代理・東大・東洋文化研究所長)

伴う貿易問題、外材輸入により外国の資源破壊 はなく、総合的に研究しようというのが国民森 題、自然保護、林業経営、木を輸入することに ての危機感があります。山村の過疎、住民の問 林が崩壊して行くのではないかという危機感 林会議の目標です。 れらさまざまな問題を、ばらばらに考えるので に加担しているのではないかという問題 ―― こ 水の問題、森林を守っている山村の問題も含め 国民森林会議が発足した背景には、日本の森

ありますが、厳しい自然の中で、日本人よりも 砂漠の農村には、木が一本も生えていない村が 私はイランの農村を二十年来研究しています。

> 引き抜いて持って行く。また、日本人は丸太の 木を大切にしています。家を建てるには泥のレ のは壁からとびだしています。 たらもったいないと、そのまま使うので、長い 長さが不ぞろいだと切りたくなりますが、切っ す。ところが、家がいらなくなると、丸太だけ ンガを積んで壁を作り、その上に丸太を渡しま

勇を振るっても努力しなくてはなりません。 むしろ日本よりはるかに豊かであるといえます。 時間を決めて水を流しています。日本で灌溉し ここでは街路樹に灌漑をする。 道に溝を作り、 遊ぶのが当たり前でしたが、かれらは泥をこね す。天国を地獄にしないためには、私たちは蛮 です。ところがその天国は危機に直面していま ているのはみたことがありません。都会の緑は、 て遊ぶ。木の文化に対し、泥の文化といえます。 日本では子供のころからナイフで木を削って 木と水の豊かな日本はイランに比べれば天国

山と町の連帯うむ木

実行委あいさつ 半田良一

(実行委代表・京大農学部長)

面から考える必要があります。とのように作られ、守られているのか二つの側があるが、常に努力して行かないとムードに流れ、自然消滅してしまう危険もありなったに流れ、自然消滅してしまう危険もありなのように作られ、守られているのか二つの側があるが、常に努力して行かないといいように作られ、守られているのか二つの側があるが、常に努力して行かないといいようには、大きにいるのがあります。

業、すなわち林業によって守られてきた。は木を育て、切り、売るという山村の人々の生環境を構成するものでもありますが、これまで緑の主体である森林は、かけがえのない自然

かつてあらゆるところに木が使われていました。 生活の上で木材のウェイトが非常に低くなりま 生活の上で木材のウェイトが非常に低くなりま 生活の上で木材のウェイトが非常に低くなりま を活の上で木材のウェイトが非常に低くなりま なると、木の代替品が進出するようになり、 とになると、木の代替品が進出するようになり、 はぎが自由である。用ずみになっても始末しや はぎが自由である。用ずみになっても始末した。

うではないか。それにより、山村も勇気づけらない。木を賢く使い、生活の豊かさを取り戻それて来ました。さいわい日本は木が貴重品ではわになり、木を見直そうというきっかけが生ましかしそうした生活への違和感が次第にあら

コナニは木巻とするうにで、云をれ、森林の復興が可能になります。

町との連帯の契機にもなるものです。 町との連帯の契機にもなるものです。 町との連帯の契機にもなるものです。 町との連帯の契機にもなるものです。 町との連帯の契機にもなるものです。 町との連帯の契機にもなるものです。 町との連帯の契機にもなるものです。 町との連帯の契機にもなるものです。 にはは、単に消費の側のみの文化ではなく、木を目的とし木を対象とする、勤労の文化的 は、木の文化は、単に消費の側のみの文化ではなく、木を目的とし木を対象とする、動労の文化がです。 大の文化は、単に消費の側のみの文化ではなく、木を目的とし木を対象とする、動労の文化がではないかと思います。 大の文化は、単に消費の側のみの文化ではなく、木を目的とし木を対象とする、動労の文化がではないかと思います。 大の文化は、単に消費の側のみの文化ではない、本の文化は、単に消費の側のみの文化ではない。 大の文化は、単に消費の側のみの文化ではない、本の文化は、単に消費の側のみの文化ではない。 大の文化は、単に消費の側のみの文化ではない、本の文化は、単に消費の側のみの文化ではない。 大の文化は、単に消費の側のみの文化ではない。 大の方には、単に消費の側のみの文化ではない。 大の方には、単に消費の側のみの文化ではない。 大の方には、単に消費の側のみの文化ではない。 大の方には、単に消費の側のみの文化ではない。 大の方には、単に消費の側のみの文化ではない。 大の方には、単に消費の側のみの文化ではない。 大の方には、単に消費の側のみの文化ではない。 大の方には、単に消費の側のみのではない。 大の方には、単に消費の側のみのではない。 大の方には、単に消費の側のみのではない。 大の方には、単に消費の側のみのではない。 大の方には、単に消費の側のみのではない。 大の方には、単に消費の側のみのです。 大の方には、単に消費の側のみのです。

/記念講演/

日本人と木の文化

でいるとサッと潮が引いていってしまうのでは、文化の流れよますが、果たして本物かということです。喜ん、共鳴しました。第一に今の時代、木の復権が話題になってい、明に向かうだる。

明に向かうだろう」と言われたことに私は大変小原二郎(千葉工業大学教授)

を食べたらお茶づけを食べたいということです。とするとサインカーブを描いて行く。スキャキて、片側をバタ臭い文化、反対側を和風の文化文化の流れというのは、一本線をひいておい

うやく生命の文明に移り、二一世紀は精神の文

有名な渡辺格先生が「いまや物質文明から、よないかという恐れもあります。遺伝子の研究で

ではないかと思います。というのは、一つの曲がり角ととらえていいのえられるのではないか。その意味で、木の復権ら、大きく見るとその方向に向かっていると考ら、大きく見るとその方向に向かっていると考渡辺先生の説も、そのカーブに乗って流れなが

木綿と木の文化

ガで鹿鳴館文化を作り、次には鉄筋コンクリーを捨てて、新しい材料に飛びつきました。レン明治の初め、私たちは木綿と木の日本の文化

す。

なことが、林野庁のアンケートに示されていまきた。また木の家に住みたい人が七五%にもないも鉄も、永久万能の材料ではないと分かっていものに走った。しかし、今やコンクリー新しいものに走った。しかし、今やコンクリー

て行ってしまうでしょう。

て行ってしまうでしょう。

で行ってしまうでし、木だ待っていても潮が押し究せてくるのでし、ただ待っていても潮が押し究せてくるのでしただ待っていても潮が押し究せてくるのでしなく、皆で引き寄せなければ、潮はまたひいるのではないか。しかして行ってしまうでしょう。

日本では方丈記にあるように、この世は仮の風穴を開けたのが、ウィンドウです。一定のリズムで巡ってくる自然に対し、シェルターで覆って人工の環境をつくるところに文化がある。厚いシェルターを作って、隅に小さながある。厚いシェルターを作って、隅に小さながある。厚いシェルターを作って、隅に小さながある。厚いシェルターを作って、隅にかさるとです。

ます。
ます。
ます。

り、こちらは生きた木でつくるわけです。事するが、日本人は白木のはしで食べたほうがいってれが文化のちがいで、それを生んだうまい。これが文化のちがいで、それを生んだっまり。これが文化のちがいで、それを生んだっます。神様に近づく空間を一方は石でつくています。神様に近づく空間を一方は石でつくています。神様に近づく空間を一方は石でつくるわけです。

木の文化のルーツ

れば、ヨーロッパは広葉樹文化であるのに対し、対し、日本は木の文化というが、木に限ってみいりの家では、ナラ、カシなどの広葉樹にニスンガの家では、ナラ、カシなどの広葉樹にニスンガの家では、ナラ、カシなどの広葉樹にニスルーツをたずねています。ヨーロッパの石とレルーやを使う。ヨーロッパの石とレルーがの家では、ナラ、カシなどの広葉樹にニスルーツをたずねています。私の著のか、ここで考えてみようと思います。私の著のか、ここで考えてみようと思います。私の著のか、ここで考えてみように表情であるのに対し、れば、ヨーロッパは広葉樹文化であるのに対し、

日本は針葉樹文化、木に塗料を塗った文化に対

です。
日本の造形文化は、建築、彫刻、工芸の九十日本の造形文化は、建築、彫刻、工芸の九十日本の造形文化は分からないと思います。私は過去十何年かかって、日本の十二世紀は前の彫刻の破片を七百五十ほど集め、何の木切前の彫刻の破片を七百五十ほど集め、何の木がを調べました。無いのは夢殿の観音様ぐらいを調べました。無いのは夢殿の観音様ぐらいを調べました。

様が出てきた。 この七百五十の木の戸籍調べを眺めていると、 を収めすインカーブにちゃんと乗っています。 はいってきて、それを忠実に取り入れ、しばら はいってきて、それを忠実に取り入れ、しばら にまでとれるが平安朝の和風文化を生みました。寝殿づくりが始まり、白木が使われ始め、 たる寝殿づくりが始まり、白木が使われ始め、 たる寝殿づくりが始まり、白木が使われ始め、 たので音でひろがった。このときから白木の仏 様が出てきた。

表だと思っている。そこに日本人の白木好きのルーツがあります。そこに日本人の白木好きのルーツがあります。そこに日本人の白木好きのルーツがあります。

ほとんど台湾から輸入しています。その台湾は、建築物にほとんど日本の檜は使われておらず、犠牲のうえに成り立っています。最近の大きなしかも木の文化といったところで、他の国の

ょうか。 は、大変素晴らしい木の文化というが、大変危なたがのに面目を保つため舞台にだけ木曽の檜が大変素晴らしい木の文化ですが、全部台湾檜で、大変素晴らしい木の文化ですが、全部台湾檜で、大変素晴らしい木の文化ですが、全部台湾檜で、大変素晴らした木を使う。麦を食って米を売ったから輸入した木を使う。麦を食って米を売

住まいの文化

てって来ました。

できたように見えたが、ここに一つ反省が起げてきたように見えたが、ここに一つ反省が起化の進行の中で、住宅産業は誇るべき成果をあ変革を体験したことはかつてありません。都市でした。

去年春、通産大臣が住宅産業は今後いかにあるべきかと諮問し、産業構造審議会が議論しました。それによると、住宅政策ではなく、住政した。それによると、住宅政策ではなく、住政した。それによると、住宅政策ではなく、住政にが、住まい文化というものをまず考え、ハーたが、住まい文化というものをまず考え、ハーたが、住まい文化というものをまず考え、ハーたが、住まい文化というというには、 まである。今までは、良い家さえ、いったが、住まい文化というものをまず考え、ハーたが、住まい文化というものをまず考え、ハーたが、住政には、まである。

った。ところが個室が密室になり、鍵をかけて日本は世界一、子供に勉強部屋を与える国になではないという見直しがされました。たとえばさらに、大きいこと、便利なことがいいこと

問題になります。
じまったところから非行問題が起きてきた。保問題になります。
にどほどの不便さをどう残すかがか(笑い)。 ほどほどの不便さをどう残すかがか (笑い)。 ほどほどの不便さをどう残すかの心ではないがないように柵で囲い、腹の減る前に餌をや配がないように柵で囲い、腹の減る前に餌をやす。豚と猪は近い親戚で、猪を捕えて、敵の心護をすれば弱くなるというのは生物学の原則で護をすれば弱くなるというのは生物学の原則で

日本人の住宅観は、先程お話ししたように、日本人の住宅観は、先程お話ししたように、かったのが、ヨーロ会然に溶け込んだ住まいであったのが、ヨーロ空気の流通すらエアコンを通して行うのが文化ではそうでも、体はそうは行かない。そこで、ではそうでも、体はそうは行かない。そこで、ではそうでも、体はそうは行かない。そこで、ではそうでも、体はそうは行かない。そこで、の民芸家具を置くと心が休まる。白木の柱、杉の長押に、外の緑と通じる物を求めて、心を休めている。こういうところに、住宅と木の復権を考わりがあることを、まず分析して木の復権を考わりがあることを、まず分析して木の復権を考える必要があります。

が考えられる。つまりシェルターは一応の水準が考えられる。つまりシェルターについてはもいまで、北海道から九州まで、オールジャパンの部品を使うというのはおかしい。そこで部品を集め、地方文化に合った形でワンパッケー品を集め、地方文化に合った形でワンパッケーはにした半完成品を供給するというのはおかしい。そこで部品を集め、地方文化に合った形でワンパッケージにした半完成品を供給するという新しい業種が考えられる。つまりシェルターは一応の水準

く良いものを作るかということです。まで行ったので、中をどのように産業化して安

です。年明け早々には発表になるでしょう。今三百の申し込みがあり、審査にかかるところの在来工法のうちから良いものを選び、建設大の在来工法のうちから良いものを選び、建設大建設省の"家づくり85"です。地方の木造住宅建設省の"家づくり85"です。地方の木造住宅をもくこから地方文化に直結した木造の住宅をも

木の魅力

木に対する一般の人の関心の強さは驚くほど
 木に対する一般の人の関心の強さは驚くほど
 本を出しました。著名な文士に、「私は名もないの本を作るので、ぜひ一言書いて頂きたい」との本を作るので、ばひ一言書いて頂きたい」との本を作るので、ほとんどの人が承知してくれ、の本を作るので、ほとんどの人が承知してくれ、の本を行るの原稿が集まったので、びっくりしています。

かと思います。 が満ちてくると、 る思いが潜在的に流れていて、一度そうした潮 すぐに感応できるのではない

を取って引っ張って行かないと、寄せて来た潮 がまた引いてしまう。今はその転換期にあるの さが分かります。それをうまくリーダーシップ 集まっているのを見ても、 ての会場にも、 私は木の最大の魅力は人間臭さだと思います。 画一的な教育の中で、成長が 木と特別関係のない人が大勢 一般の人の関心の深

法隆寺は檜で建てられて千三百年たっている

早かったり、落ちてぼれたりする人間の姿を思 わせます。庭に一本だけ植えた杉は、日当たり 杉の林を見ると、



ちてもたまらず、肥やしにならない。木のため が良く枝が伸びるので、板にすると節だらけだ て木のためにならない。 刈りとってきれいにしてしまう。すると葉が落 が本当ですが、養分を吸い取られるというので す。杉、檜の林は下木、下草が混じっているの が、使い方によっては素晴らしいものになりま にいいと汗水たらして保護したことが、かえっ

う人間工学的な横軸の評価をしたらどうかと思 間に一番近いものがよい、遠いものは悪いとい るが、それに火という生き物が加わると、もう るような自然の輪廻です。土が死ぬと砂漠にな 次は土です。土を生かしているのは気の遠くな います。人間に一番近いものは木綿と木、その 強くて、年とともに直線的に弱くなる。生命の うど元に戻る。あらゆる工業材料は新しい時が だいに強くなり、次に弱くなって、千年でちょ したものです。 窯の焼きものです。次には鉄、ガラス、コンク いものから縦にならべます。しかし、私は、 す。こうしたところに私たちはひかれます。 入ったものだけが、こういうカーブを描くので んど同じです。伐られた木は、その直後からし が、この檜と新しい檜と、強さを比べるとほと 人間に近いのは石です。石は地球という大きな 度生命を帯びて陶器になる。焼きものの次に 材料学というのは物理的な強度試験をして強 てれらは自然の材料を、 人間が再生産

その向うにあるものは、プラスチックです。

です。 もちろん、あらゆる生物にとって大変悪いそう 料と重金属です。 材料は、地球の奥深くにあった石油化学系の材 存在し続けるものです。人間にとって最も遠い たと同じエネルギーを費やさなければ、永遠に 人間が作らなければ、この世に存在せず、作っ 石油化学系というのは人間は

の評価軸をとっても、一番にはならないが、ど うものを扱ってつくづくと感じるのは、木はど という、反省点にさしかかっています。木とい て来たが、一番大事なものはやはり生物だった 最もバランスのとれた材料です。 番がないから秀才ではないが、横軸から見れば、 れをとっても三番か四番にはなることです。一 日本人は明治百年を機械文明万能で突っ走っ

なことを教えてくれます。 うになり、偏差値教育が幅をきかすようになっ るものです。明治までは横軸評価をしていたの が、それ以後はヨーロッパ的縦軸評価をするよ た。木を見つめていると、 木綿も絹も同様で、これは人間評価にも通じ このようにいろいろ

こはら じろう 氏

り建築学科教授、工学部長をへて現在に至る。 学農学部卒、京都府立大学から千葉大学に移 教授、千葉大学名誉教授、農学博士。京都大 ン」「木の文化」「法隆寺を支えた木」ほか。 産業構造審議会委員、建築審議会委員。著者 建築・室内・人間工学」「インテリアデザイ 一九一六年、長野県生まれ、千葉工業大学

本ものの木の文化求めて

木の素材にこだわる

村

哉

(京大・木研

から、できたものには魂のないもぬけの殻で、責任転嫁するために金をだす。責任を持たないなります。行政も世のムードが盛り上がると、思います。緑に対する認識が高まって来ると、思います。緑に対する認識が高まって来ると、ように位置づけたらよいか、まとめてみたいとように位置づけたらよいか、末とめてみたいと



ないと思ってきました。ジウムはそんな魂の抜けたようなものにしたくまたすぐ新しいものに飛びつく。今日のシンポ

を担っていました。

本担っていました。

本担っていました。

本担っていました。

本担っていました。

本担っていました。

本担っていました。

本担っていました。

昭和四十年ごろ、林産学科も木材工芸学などでてしまったのです。

何の特色もありません。学生も集まらず、何のそれから二十年近くたった今、林産学科には

使する限り、先行きだめになるでしょう。他する限り、先行きだめになるでしょう。林産景気が悪くなると林産学も落ち目になる。林産かバイオ・テクノロジー、バイオ・マスとかにったら、サッサと木材工業を捨て、環境科学とったら、サッサと木材工業を捨て、環境科学とかバイオ・テクノロジー、バイオ・マスとかにから、ところが、これらも、小原先生の言われるようにサイエンスのいやらしょう。林産業とベッタリくっついているので、木材工業の業とベッタリくっついているのでしょう。

林産学だけでなく、農学全体がその方向に向かって右往左往しています。専門分化しすぎて、合的に個々人の立場を掌握できない。お互いの意思の疎通ができない。私はカッコよくいえば、ひとりでもいいから木材の素材にこだわって、総ひとりでもいいからする。専門分化しすぎて、総がのではないかと思う。

刻むのか、生かすのか

本材という素材と科学技術について考えて、たいと思います。直径三メートルのけやきの木は、七年前の価格ですが、切っただけでは五千は、七年前の価格ですが、切っただけでは五千は、七年前の価格ですが、切っただけでは五千は、七年前の価格ですが、切っただけでは五千は、七年前の価格ですが、切っただけでは五千は、七年前の価格ですが、切っただけでは五千は、七年前の価格ですが、切っただけでは五千は、七年前の価格ですが、切っただけでは五千は、七年前の価格ですが、切ったけできるでは、七年前の価格ですが、切ったけできるでは、七年前の価格ですが、対している。

三億という札束だけが残るのです。

三億のつき板が生むものは利益だけです。いろいろな物語が語り継がれ、伝承されて行く。ない限り私たちの周りにありつづけ、そこからない限り私たちの周りにありつづけ、そこから扱うと、三億より儲かるとは言えないが、燃えけやきを、素材を生かした木工芸の材料としてけやきを、素材を生かした木工芸の材料として変換されたもので、木の実態は何もない。この変換されたもので、木の実態は何もない。この

今日の科学技術は、けやきの使い方に象徴されるように、スクラップ・アンド・ビルド ―― おように、スクラップ・アンド・ビルド ―― を登したり作ったりするエネルギーを産み出す事段に用いられるだけで、私たちの生活文化の手段に用いられるだけで、私たちの生活文化のましんどなく、未来永劫スクラップ・アンド・ビルドが続き、技術者、科学者は巨額の金を使いたが、気がついたら何も残っていないということが、気がついたら何も残っていないということになります。

の人は緑を欲望の対象にしているが、山の人はたら必要な経費が七千万かかったそうです。町ある山の持主が七千万の価値のある木を切っ

のはナンセンスです。けて木材のバイオ・マス変換などと言っているった。林学、林産学がそうした現実に目をそむ切ることで何も生みださないことを知ってしま自分たちが何十年、何百年かかって育てた木が

五百年たったけやきを木として残すか、よりてから三億円の金にしようという発想、この二いから三億円の金にしようという発想、この二いから三億円の金にしようというというないがら三億円の金にしようという発想に展示いから三億円の金にしようという発想、この二のけんかということになります。

単純明快に定義しています。単純明快に定義しています。ために、木の五百年の存在をネグるのが文明と、ために、木の五百年の存在をネグるのが文明と、ために、木の五百年の存在をネグるのが文明と、ために、木の五百年の存在をネグるのが文明と、大のに、木の五百年の存在をネグるのが文明と、からこ後では、ほんの小びよこのくちばしに使った紫檀は、ほんの小びよこのくちばしに使った紫檀は、ほんの小びよこのですが、二百年も大います。

情緒をデザインして

ことが私には非常に不思議です。に対し、受動的です。この両極が存在しているが前者は後者に能動的に働きかけ、後者は人間究極の形であると、私は思っています。ところ人間は動物の究極の形であり、樹木は植物の人間は動物の

文化とは、また存在するものの確かさを認めているように思われた、利用したあと際限もなく危害が拡大して行く人工物の存在を比較すると、神と悪魔のように思われた、利用したあと際限もなく危害が拡大して行く人工物の存在を比較すると、神と悪魔のように思われます。しかし、文化と文れているように思われます。しかし、文化と文明には、常に切っても切れない間柄にあります。文明論的立場だけに立つというのは、人間の本文明論的立場だけに立つというのは、人間の本質ではありません。何とか両方のバランスをと質ではありません。何とか両方のバランスをとりたいと思うのです。

素材とは、文化の遺産そのものだと思います。を考えると、遠い祖先の仕事に時間を超えて思いを馳せることができます。時間の経過がそ思いを馳せることができます。時間の経過がそ思いを馳せることができます。時間の経過がそらは感じます。文化は人間の人間たる所以である。情緒という素晴らしい属性をかたちにしてる。情緒という素晴らしい属性をかたちにしてる。情緒という素晴らしい属性をかたちにしてある。情緒という素晴らしい属性をかたちにしてある。情緒という素晴らしい属性をかたちにしてがある。情緒という素晴らしい場所を担います。

私たちの祖先、とくに日本人はそれを惜しげおかしいわけです。

木は文化の表徴そのものであり、木を使うとい木という文化遺産をどのように残していくか。

を思います。 さ思います。 と思います。 と思います。 と思います。 と思います。 と思います。 と思います。 と思います。 と思います。 と思います。 とのできる人はほとんどいません。それを育てるのできる人はほとんどいません。それを育てるのできる人はほとんどいません。それを育てるのできる人はほとんどいません。 とのできる人はほとんどいません。 それを育てるのできる人はほとんどいません。 を規するデザインすることです。 しかし日

木を育てることと生かすこと

真砂典明 (林業経営)

不安定労働の林業技術者

林業労働に直接従事している人は、山村住民の林業労働に直接従事している人は、山村住民の大変を知っていただきたい。山村の中でとく村の姿を知っていただきたい。山村の中でとくに厳しい状況に置かれている者の立場から、具体があるか、木を育てている者の立場から、具体があるか、木を育てている者の立場から、具体があるか、木を育てている者の立場から、具体があるか、木を育てている本業技術者とのかかわりについてまず触れてみたいと思います。日本の国土の三分の二は森林に覆われていますが、その森林のある山村に住んでいる人は、山村住民の林業労働に直接従事している人は、山村住民の林業労働に直接従事している人は、山村住民の林業労働に直接従事している人は、山村住民の林業労働に直接従事している人は、山村住民の林業労働に直接従事している人は、山村住民の

三・一%、国民全体に占める割合はわずか○・ 一四%です。しかも林業に従事する人たちは高 を体としては山村の過疎は進んでいます。 では山で働く人はどういう状態におかれているか。日雇いで、天気がよければ仕事に出る。 雨が降れば休むが、日曜も祝日もありません。 一年間の労働日数は、専業の人で百七十日から 二百二十日ぐらいで、仮に日当が高くても年収 にすると非常に低くなるということです。 こすると非常に低くなるということです。

っても事業主にとっても必要なことです。なります。就労の安定が、山で働く技術者にとって、非常に計画をたてにくいということにも林所有者、山林を対象に事業をする事業主にと

日を確保できるようになりました。
は減りましたが、その後は年間二百六十~七十策が確立されなかったので、従業員の就労日数り組みました。導入して二年ほどは、雨降り対策が確立されなかったので、従業員の就労日取の間の雨降り対策として、木工品づくりに取る組みました。

須の基本的条件だと思います。 であります。雨降り対策は、これからの林業 で加入条件、受給条件が有利になるということもあります。雨降り対策は、これからの林業 ともおります。雨降り対策は、これからの林業 とだけでなく、それによる所得の増大、社会保 とだけでなく、それによる所得の増大、社会保

ボリュームから質へ

本の意識はより増幅されて行きました。 本の意識はより増幅されて行きました。 私が木工品づくりに取り組んだきっかけは、 座ってみるとドッシリとした落着きがありが、座ってみるとドッシリとした落着きがありが、座ってみるとドッシリとした落着きがありが、座ってみるとドッシリとした落着きがありが、座ってみるとドッシリとした落着きがありが、座ってみるとドッシリとした落着きがありが、座ってみるとドッシリとした落着されて行きました。 私が木工品づくりに取り組んだきっかけは、私が木工品づくりに取り組んだきっかけは、

の曲がった部分を材料にして、無駄のないよう初めは、主たる生産物である建築用材の根元

あとの仕事の保障はありません。これは山

文もなかなか好調です。

大りをしているわけです。 五十二年に和歌山県で全国植樹祭が開かれた の副産物として、観光とのかかわりで民芸品づ の副産物として、観光とのかかわりで民芸品で の副産物として、観光とのかかわりで民芸品で の副産物として、観光とのかかわりで民芸品で の副産物として、観光とのかかわりで民芸品で の副産物として、観光とのかかわりで民芸品で の副産物として、観光とのかかわりで民芸品で の副産物として、観光とのかかわりで民芸品で

目的のものをつくる過程で切り捨てられた部



です。
が動物、植物、怪獣などに見えて、一つの創造が動物、植物、怪獣などに見えて、一つの創造が動物、植物、怪獣などに見えて、一つの創造が動物、植物、怪獣などに見えて、一つの創造が出てきますが、この廃材も有効に利用でき

皆さんから教えられたことも大いにあります。ちように単なる置物以外に利用できる。これは、うように単なる置物以外に利用できる、といで実際にやってみました。れ太を斜めに切って、というように単なる置物以外に利用できる、といで実際にやってみました。丸太を斜めに切って、で実際にやってみました。丸太を斜めに切って、で実際にやってみました。丸太を斜めに切って、で実際にやってみました。丸太を斜めに切って、で実際にやってみました。丸太を斜めに切って、

木に触れる時山村へ思いを

百円になります。身近にある、山で切り捨てらています。五十四年に友人にすすめられて、枝やれます。五十四年に友人にすすめられて、枝や即を利用してループタイを作りました。これに節を利用してループタイを作りました。これに節を利用してループタイを作りました。これにりれます。五十四年に友人にすすめられて、枝やしれます。方が一・五センチ、長さ二メートルあたり六百六十万ぐらいになります。 しこれから "木ホルダー" があります。材料になるのは細い丸太で、ダー" があります。材料になるのは細い丸太で、ダー" があります。材料になるのは細い丸太で、ダー" があります。材料になるのは細い丸太で、ダー" があります。材料になるのは細い丸太で、ケー" があります。材料にするのは細い丸太で、ケー" があります。材料になるのは細い丸太で、ケー" があります。材料になるのは細いれている中になります。

私の木のネクタイピンを見て、「めのうのの目を見たわけです。 れたような木材が、こうした形で生かされ、

価値の付けかたによっては、めのうと同じ程の うですね」という人がいます。私は木でも付加 林業関係の皆さんは、 値打にもなると、自信をもつようになりました。 でいいのではないかと思います。作りだされた の加工、木に付加価値をつけることに取り組ん だきたい。 る林業技術者がいることに、思いをはせていた 村の厳しい環境の中で、木を育てようとしてい らでも、木の生まれ育った森林、 っていただきたい。そして小さな木の切れ端か 全体から来る暖かさ、それらをもっともっと知 木製品の木目、色、 私の木のネクタイピンを見て、 艶、 もっと自信をもって、木 香り、木肌の美しさ、 森林のある山 「めのうのよ

きたいのです。をかいのです。といいのです。といいのですが、一方で森林浴も含めたのが主たる目的ですが、一方で森林浴も含めたのが主たる目的ですが、一方で森林浴も含めたのが主たる目的ですが、一方で森林浴も含めた

五十二年から、林野庁の後援を得て、十月八日を「木の日」と定めました。木の大切さ、木日を「木の日」と定めました。木の大切さ、木のよさを見直し、木に感謝する一日にしたいと願っています。そして国民全体の木の日が来るとを願っています。

子供の教育と *木

コミニューケーションをつくるもの

辻 井 正 (おもちゃらいぶらり・主宰)

今、子供の持っている感性には非常に問題が今、子供の持っている感性には非常に問題がない。ところが、学校へ行きないというと、熱が下がる。幼稚園かなくてもいいというと、熱が下がる。幼稚園かなくてもいいというと、熱が下がる。幼稚園かなくてもいいというと、熱が下がる。幼稚園などでも効かないのです。ところが、学校へ行きたくないというと、熱が下がる。幼稚園などでも対している感性には非常に問題がなさい」というと安心して行きます。

外国のある小児病院では、子供が入院すると、なさい」というと安心して行きます。

はない元とによれてよれ気体にはよいます。 はないうと言うようになります。また盲腸の手術をする子供は、前日に自分が医者になって、人形にる子供は、前日に自分が医者になって、人形にる子供は、前日に自分が医者になって、人形にる子供は「家に帰ります。また盲腸の手術をすると子供は「家に帰りたくない。病院が面白すると子供は「家に帰りたくない。病院が面白すると子供は「家に帰りたくない。病院が面白はないがらず、術後の経過もいいそうです。

なるのではないでしょうか。と校へ行きたくない子供は意外に択山います。学校へおいで。ただで給食を食べさせてあげるよ」というようにしたら、子供は学校が大好るよ」というようにしたら、子供は学校が大好るよ」というようにしたら、子供は意外に択山います。

子供の感性が「異常」に

山へ行くと、斜面に座って上手にバランスをといたが、坂道を歩くのに、重心をうまく移せないなところがあります。「天声人語」にありましたが、坂道を歩くのに、重心をうまく移せないなところがあります。「天声人語」にありましたが、坂道を歩くのに、重心をうまく移せないが特別な子供ではなく、ごく普通の子供の方にが特別な子供ではなく、ごく普通の子供の方にが特別な子供ではなく、ごく普通の子供の方にが特別な子供ではなく、ごく普通の子供の方にが特別な子供ではなく、ごくが表していると、名

ん。は斜めになったところでは弁当を食べられませって弁当をひろげたものです。しかし、今の子

て思えます。

で思えます。

驚くべきことです。 驚くべきことです。 のな撃されたとき、相手に向かって行くことがら攻撃されたとき、相手に向かって行くことがら攻撃されたとき、相手に向かって行くことがら攻撃されたとき、鉛筆で自分の目をつつき始めたく叱られたら、鉛筆で自分の目をつつき始めた

子供の感じ方、感性、ひとから来るものの受けとり方に大きな問題があるのではないかと思います。この夏、あるテレビ局が子供の問題を特集するというので、いじめっ子、いじめられっ子というテーマでインタビューをやりました。子供が集団で遊んでいる場所がないので、ある子供が集団で遊んでいる場所がないので、ある子供が集団で遊んでいる場所がないので、ある子供が集団で遊んでいる場所がないので、ある子供が集団で遊んでいる場所がないので、ある子供がます。とかあるか」ときくと、『公殺し』といって、チョークの粉を集め、いじ殺し』といって、チョークの粉を集め、いじめられる子の頭から足の先まで塗りたくるのだろうです。

って゛といって順番に首を締める。これだけな幼稚園の子ではやっているのは゛西部警察ど

供はくっついています。 はなくっついています。このにせものの親分に子ものです。子供にけんかのしかたを教える親分ものです。子供にけんかのしかたを教える親分ものです。子供にけんかのしかたを教える親分ものがテレビの格闘場面そのままですさまじい引っ張って治めるようになってきています。けらまだいいが、エスカレートして、ひもを二人でらまだいいが、エスカレートして、ひもを二人で

が大変下手です。 が大変下手です。単に言葉によるコミュニケーションではなく、人をどう感じる、人が何を考えョンではなく、人をどう感じる、人が何を考えョンではなく、人をどう感じる、人が何を考えいるのかわかる、自分の思っていることですが、子供はそれのはコミュニケーションです。単に言葉によるコミュニケーをできない。

トするものばかりのようです。 や子供が持っている物は、何かを伝えていく か、子供を取り巻いているものは、伝えたり、 取るものばかりです。木はあまり熱をとらない 取るものばかりです。木はあまり熱をとらない すスチック、アクリルなど、冷たい、熱を吸い りるものばかりのようです。

真の遊びがなくなった

の前に座れと連れて行きます。お母さんが化粧います。その子は一日に何回も、お母さんに鏡に出られないと一日髪の毛をむしっている子が私の知っているちょっと言葉の遅れた子で、外また親が出るときでないと外に出られません。います。その子は一日に何回も、お母さんが化ないます。団地の三層住宅は非常な問題を含んでいます。団地の三層は宅はよれないと一日髪の毛をむしっている子が高います。お母さんが化粧います。お母さんが化粧います。

向が進んでいます。一般の子供でも、外へ出ないという自閉的な傾をすると外へ出られると知っているからです。

私たちが学校が好きだったのは、学校の体育をても愛着があったからです。そうした場所がとても愛着があったからです。そうした場所がとても愛着があったからです。そうした場所がとても愛着があったからです。そうした場所がとても愛着があったからです。そうした場所がとのものだというのでなくされてしまいました。今の子供は極端に物に囲まれて生きています。中の子供は極端に物に囲まれて生きています。かれば教育玩具、小学校入学のときは豪華な学別れを買ってもらいます。五、六年になると六段ギアつきサイクリング車、中学生になると十段ギアつきサイクリング車、中学生になると十段ギアつきサイクリング車、中学生になると十日かし、これだけ物に囲まれると、子供自身もしかし、これだけ物に囲まれると、子供自身もしんどくなってくる。物に対して消化不良を起しんどくなってくる。物に対して消化不良を起しんどくなってくる。物に対して消化不良を起しんどくなってくる。物に対して消化不良を起しんがよりである。

その証拠ともいう現象が、関西の小学生の間ではやっている牛乳のびんのツメを集める遊びではやっている牛乳のびんのツメを集める遊びではやっている牛乳のびんのツメを集める変がです。昭和四十年代の初めにはやった酒の王冠がで、一升びんをあけるのを楽しみに待っている。お父さんは子供のために必死にピッチをある。お父さんは子供のために必死にピッチをある。お父さんは子供のために必死にピッチをある。お父さんは子供のために必死にピッチをあばで、一升びんをあけるのを楽しみに待っている。お父さんは子供のために必死にピッチをある。お父さんは子供のために必死にピッチをあずた。

ただ、今の遊びが違うのは、びんのツメ集め

険にさらされています。ることです。そういうかたちで子供の文化は危がはやれば、そのコピーが印刷され売られてい

豊かさの中に見失ったもの

子供たちは豊かさの中で生きています。朝おい、夕食のときは六五%がすいているかと聞くと、四五%がすいていたない、夕食のときは六五%がすいていないと答さるそうです。お母さんに、だれを中心に献立たない、夕食のときは六五%がすいていないと答されい、夕食のときは六五%がすいていないと答さい状態の中で自閉的になってきている。この問題を考えるのには、だから木を素材に使えらない状態の中で自閉的になってきている。これではいいというような答えではなく、四五%がすいていり間題を考えるのには、だから木を素材に使えていいというような答えているの中で生きています。朝お子供たちは豊かさの中で生きています。朝おります。

では、古いところは窓枠が木でで をなった。本というのは追い込まれた子 なつけるのです。木というのは追い込まれた子 がから自分の体を傷つけたり、自分の頭を壁に いから自分の体を傷つけたり、自分の頭を壁に がつけるのです。木というのは追い込まれた子 がつけるのです。木というのは追い込まれた子 がつけるのです。木というのは追い込まれた子

子供の立場から発言させていただきました。で、子供たちは木の枠をかじっている。木の問題というよりは、子供からの訴えというものを題というよりは、子供からの訴えというものをで、子供たちは木の枠をかじっている。木の問で、子供たちは木の枠をかじっている。木の問で、子供たちは木の枠をかじっている。木の問で、子供の立場から発言させていただきました。

"木の復権" いかせ

山村と都市再生のカギ



聴衆の発言と(右下)中川コーデネイター

1

えない。これでいいのだろうか。また、皆伐は 岸壁をコンクリートで固め、魚は住まず草もは えて皆伐をやったのはなぜなのか。 おそろしいものだと思っていたが、 日本の川はほとんど堀のようになって では、
で質問と
意見を
いただきます。 林野庁があ

材木が安く提供されます。日本の場合、木を切 自然保護の立場からも当然制限はあります。 積の場合を言っておられるのだと思いますが と必ず植えて育てています。ご質問は広大な面 員の生活の必要のためでもありますが、そのあ しますから心配はいりません。 ったあと全く裸になるわけではなく、すぐ植林 業経営上森林の管理をするためと、自分や従業 中川 皆伐をすると伐採費が安くつくわけで、 真砂 私の森林でも皆伐をやっています。

ことが手柄だから何かつくらなければならない。 なくどんどん使う。建設省の役人は仕事をする てきますから、役人はありがたさを感じること したいと思います。税金は巧妙に吸い上げられ 野村 しろうとの立場から川についてお答え 建設省はこれからもどんどんやるでしょう。



授業より面白く楽しいシンポ

興味があったので、母がこのシンポジウムの なく参加することにした。 ことを私に話してくれた時は、何んの迷いも 私は幼い頃から、木や竹で物を作ることに 摂子(吹田市・高校二年)

のかとか、一辺に頭に押し寄せてきた。私の 係とか、日本人と木のかかわり、 ると、日本と外国で木はどういうふうに扱わ とを話すのだろうと思っていたが、行って見 今どうやって森林を守って行こうとしている れてきたのかとか、日本文化と外国文化の関 参加する前になって、きっとむつかしいこ あるいは、

ょう。れば、行政の施策は一方的にしか進まないでしれば、行政の施策は一方的にしか進まないでしだいた皆さんの力がいい方向に向いていかなけてれを止めるためには、こうしてお集まりいた

ぜいたく品化した『木』

用する方法についてくわしく聞きたい。生のお話にもありましたが、そうした欠点を利材の節とあてが商品価値を下げている。真砂先つつあるのではないかということです。また木のお話にもありましたが、そうした欠点を利感じることは木材の住宅とはぜいたく品になり感じることは木材に二十年関係していますが、

小原 木の家が庶民の手から離れて行くといれ原 木の家が庶民の手から離れて行くというお話でしたが、土地の価格を別にして日本は世界で一番住宅の価格が高い国です。造船、自世界で一番住宅の価格が高い国です。造船、自世界で一番住宅の価格が高い国です。造船、自世の方ない、塗壁がプリント合板にかわっただ変わらない、塗壁がプリント合板にかわっただ変わらない、塗壁がプリント合板にかわっただ変わらない、塗壁がプリント合板にかわっただ変わらない、全壁がプリント合板にかわったが高いない。

戻ってきつつあるところだと思います。来工法の家を考え直そうということで、振子がたということがあります。いま、木造の家、在くなったと騒がれすぎて、〝木離れ〞しちゃった民は大変木造住宅が欲しいのだが、木がな

ドバイスできるほどのものはありません。私た験もまだ緒についたばかりなので、皆さんにア真砂 木の欠点の利用法については、私の体

るものがあるはずです。なくてはならないのが他のものに変わられていき換えてみたらどうだろうか。その中で、木でちの日常生活に必要なものを、一度全部木に置

たテーマとして勉強します。 でいますが、身近なものにあてはめて考えてみれば、あての部分でなくてはならないものが、れば、あての部分でなくてはならないものが、いますが、身近なものにあてはめて考えてみがます。あての部分は、一般には欠点とされています。あての部分は、一般には欠点とされています。あての部分は、一般には欠点とされています。

有効活用』から木芸品

一しかない。 野村 木の重みを手仕事を通じてある形にす の文化です。伝統工芸というのは、新しいこ とをやってはいけないので、技術を伝承するこ とが最終目的であるかのように綿々と続けられ とが最終目的であるかのように綿々と続けられ とが最終目的であるかのように綿々と続けられ とが最終目的であるかのように綿々と続けられ とが最終目的であるかのように綿々と続けられ とが最終目的であるかのように綿々と続けられ とが最終目的であるかのように綿々と続けられ とが最終目的であるかのように綿々と続けられ とが最終目的であるかのように綿々と続けられ とが最終目的であるがのは、新しいこ

大量に安価にできるというところにすぐ基準

ろいと言っていた。友だちなどは学校の授業よりずーっとおもし

だった。
だった。
だった。
だった。

を期待します。 このシンポジウムの努力がむくわれることれて、本当にありがとうございました。

一般参加者の多さにびっくり

一般の人の多いのに驚きました。まず、四百人の会場が満員で、そのうち林まず、四百人の会場が満員で、そのうち林まず、四百人の会場が満員で、そのうち林の人の多いのに驚きました。

展示もあり、大変有意義な会だと思いました。た。他に、文化と文明の話、また、木工品のに立ってやることを期待する発言がありましに立ってやることを期待する発言がありまし、林業関係者から、林業行政(外材含め)、

自然保護は山村の人と共に

りで参加しました。木について何も知らないので、勉強のつも小田(信子(吹田市・主婦)

のにかかわって行かなくてはならない。は、人間の存在、自然の存在、情緒といったものものに、九万倍の付加価値をつけて行くもののものに、九万倍の付加価値をつけて行くものは、人間の存在、自然の存在、情緒といったもない。価値を生産効率におく限りは、人間がどのす。価値を生産効率におく限りは、人間がどののにかかわって行かなくてはならない。

私はおもちゃづくりにはしろうとです。しかれたちはそれをサポートしていきましょう。ところから形にしたのです。今ご質問の方には、ところから形にしたのです。今ご質問の方には、ところから形にしたのです。今ご質問の方には、ところから形にしたのです。やで質問の方には、というところから形にしたのです。とがして、まだ方円の檜の一番いいところをつき板にして、あとは捨ててしまう発想に抵抗して、それを拾ってきて存在感を位置づけしたいというれたちはそれをサポートしていきましょう。

真砂・木ホルダー、を例としてお話ししまれたか、これは決して消滅するものではないと思います。小原先生が、法隆寺の柱が千三百年生き続けていると話されましたが、私も、小さ生き続けている除間伐材、小径材を少しでも有と思いますが、それは木だからです。山で切りと思いますが、それは木だからです。山で切りと思いますが、それは木だからです。

木のトータルな研究を

た製品の研究は非常に少ない。物理化学的な研究されていますが、材木だけの話で、加工され小原、木材の利用というのは全国の大学で研

木だけについて研究するんです。をれを克服しなくてはならないと言ったら、材悪い、弱い、高いという五つの欠点がある、悪に性が悪い、弱い、高いという五つの欠点がある、悪住性が突で、経済的な研究ではない。林野庁の木の住

埋められないのです。

埋められないのです。

ないのです。そこに大きなギャップがある。

たトータルな立場で考えようとしてもデータは

ないのです。そこに大きなギャップがある。

はないのです。そこに大きなギャップがある。

他の材料は開発されるまでに多額の金をかけ、他の材料は開発されるまでに多額の金をかけ、また「リーリーのであたりで皆でがいない。またトータルな研究がない。その両方いない。またトータルな研究がない。その両方は 関係されるまでに多額の金をかけ、

会場発言 伊勢神宮の二十年ごとの遷宮は木がもったいないというお話がありましたが、内宮に使った材料を外宮に使う。また橋の材料にする、他の神社に無料で払い下げるなどして決する、他の神社に無料で払い下げるなどして決する、他の神社に無料で払い下げるなどして決する、他の神社に無料で払い下げるなどして決する、他の神社に無料で払い下げるなどして決する。

私も自然保護運動に取り組んでいますが、人たちと一緒にやって行かなければ山は守れたたと一緒にやって行かなければ山は守れないと思います。林業と自然保護をどうからないと思います。林業と自然保護をどうからないと思います。林業と自然保護をとか山村のとのもあり、大変参考になりました。

入れることが必要なのではないでしょうか。る人たちも、これらの子供たちの教育に力を過程や緑について何も知りません。木に係わ今の子供たち(特に都市部)は、木の育つ

身辺に雑多な木が戻れば

思います。り戻すためにはそんな木が必要ではないかとも自由に使える木でした。「木の文化」をとも自由に使える木でした。「木の文化」をとれがありました。それは、切っても、削って

のですが。 達の周囲にも雑多な木がもどれば良いと思うはなくて、木が燃えることを思い出すし、私とも、ガスと電気の押しつけのエネルギーで表ストーブを使う運動でもすれば、少なく

F田善文(奈良教育大教授・実行委員) 確て、研究・対策が遅れているのではないか。質問 日本では樹種特に広葉樹の保護につい

平田善文(奈良教育大教授・実行委員) 確平田善文(奈良教育大教授・実行委員) 確ではないかということだが、最近この問題が見ではないかということだが、最近この問題が見ではないかということだが、最近この問題が見に取り組んでいます。地域の環境に適した木とに取り組んでいます。地域の環境に適した木とに取り組んでいます。地域の環境に適した木とに取り組んでいます。地域の環境に適した木とではないかたちで保存をはかっています。

材が減って、国産材に陽のあたるときがくるかは多いが、輸入材におされている。この先輸入が、今迷いの時期に来ている。家を建てたい人が、今迷いの時期に来ている。家を建てたい人質問「滋賀県の山で林業、農業をやっている

見通しが全然わからない。希望があるなら山を見通しが全然わからない。希望があるなら山を見通しが全然わからない。希望があるなら山でくるので、安心して下さい。はどっと出回ってくるので、安心して下さい。はどっと出回ってくるので、安心して下さい。 見通しが全然わからない。希望があるなら山を見通しが全然わからない。希望があるなら山を

杯ですが、このへんで閉じさせていただきます。さいました。全部の方から伺いたい気持ちで一本日は沢山の方が意見を持ってお集まりくだ思います。(別掲のアピール読み上げ)

心のぬくもり伝える。木

太田 基子 (枚方市・教委)

シンポジウムがあることをテレビで知り参

変感動しました。形を変えて永く生き続けていることを知り大ものだと思っていましたが、伐り倒されてもものだと思っていましたが、伐り倒されても、木は伐り倒されれば朽ちていく加しました。

学び再認識させられました。ている人々の労働や生活の厳しさについても人間に与えてくれる恵み、林業にたずさわっまた、日本が森林国であることや、森林がまた、日本が森林国であることや、森林が

も聞き、感激して帰ってきました。木のおもちゃは、木の暖かさと、それを作

国民の森林を考える関西シンポジウム『木の文化』アピール

「文化の伝承は森と木と人の融和から」

今日、文明化が進む中で、私達個々人の存在をよるという大目的のための手段ではないでした。文明とは文化を構築するための手段であった。文明とは文化を構築するための手段であった。文明とは文化を構築するための手段であった。文明とのものが目的ではないはずです。文化もまた、人間一人ひとりの存在を自然と調和化もまた、人間一人ひとりの存在を自然と得かが発達になってきています。人類の存在をよ感が希薄になってきています。人類の存在をよれるという大目的のための手段ではないでした。

です。かもしだすことがあって、はじめて、人をいう。からしているというるとに要するエネルギーの潜費になす。一方、文化はエネルギーの蓄積の中から生まれてくるものです。
この意味からすれば、森林はエネルギーの蓄まれてくるものです。
この意味からすれば、森林はエネルギーの蓄まれてくるものであり、この中に森羅万象、全ての化は蓄積があって後、かもしだされてくるもの化は蓄積があって後、かもしだされてくるもの化は蓄積があって後、かもしだされた破壊する。かもしだすことがあって、はじめて、人です。かもしだすことがあって、はじめて、人です。かわって、はじめて、人

今、森と木と人との細やかなかかりから、 今、森と木と人との細やかなかかりから、 今、森と木と人との細やかなかかりから、 村が山村の目で、それぞれ都合のいいように森 村が山村の目で、それぞれ都合のいいように森 について論議するのはこのあたりで終りにした いものです。今日まで両者で論議しつくされた 中から確かなものを選択し、蓄積のある文化を 中から確かなものを選択し、蓄積のある文化を 中から確かなものを選択し、蓄積のある文化を で会を発足させ、木を通して、具体的に実践し 究会を発足させ、木を通して、具体的に実践し でいこうではありませんか。



ているとの事である。
ここは東京都民の生命を支える奥多摩湖から二、○○○メートルの高峰雲取山へ通じるが集落であった。昭和三十年代までは二十分小集落であった。昭和三十年代までは二十つが東落であった。昭和三十年代までは二十つが東京都民の生命を支える奥多摩湖から二、○○○メートルの高峰雲取山へ通じるの家に年老いた夫婦がひっそりと余生を送っているとの事である。

近寄った一軒の家には人影もなくひっそりとに思いをはせると声なき囁きが聞こえてくとかい空家と分った。軟らかな秋の日射しを全身に受け庭石に腰を下して、何時の世かことに移り住みここに生まれ、ここに眠る人びとに思いをはせると声なき囁きが聞こえてくる。

物悲しさが胸をしめつけてくるようだ。をれは深い悲しみと憤りの声であった。これを思うと、いい知れぬ百年と守り続けた山も畑もそして老いた両親存できなくなりやむなく植えたのであろうのスギはどんな思いで植えられたのであろうのスギはどんな思いで植えられたのであろうのスギはどんな思いで植えられたのであろうのスギはどんな思いでをある。それを思い、これを思うと、いい知れぬか。それを思い、これを思うと、いい知れるとしめつけてくるようだ。

 ∇

を流れる小袖川からやまべやいわなの川の幸た。山畑からは麦やそばや野菜が穫れた。下の間は養蚕に精を出し、冬になると炭を焼いた人間の暮しが営なまれていたのである。夏またこの小袖の集落にもしっとりと落ち着いま かされているこの廃屋にも、

えてく 廃屋の集落と化す日も遠くないだろう。世かと あったろう。今はそのぬくもりを偲ぶよすが財しを 家族の団らんは夜の更けるまで続いたことで射しを 家族の団らんは夜の更けるまで続いたことでかは主 の肉は大きな囲炉裏の大鍋にかけられ温かいっそり が得られたであろう。たまに獲れる山兎や猪

放置される。これでいいのだろうか?て人手の入らなくなった山は荒れるがままに去ってゆく。廃屋の集落が増えてゆく。そしこうして日本の屋根を支えた人たちが消え

 ∇

昭和三十六年世界の歴史にも例を見ないとのは私一人であろうか。

めているのは税務署だけだ。いや自然讃美論命は雑木林をタダにしてしまった。価値を認死回生の妙策はないものであろうか。燃料革座して死を待つのは何としても口惜しい、起

廃屋の囁やき

世 源である。 という人をどうして責められようか。木材は なれば、今のうちに金にしてあとは植えない もタダにならないとの保証はどこにもないと 材が山のこやしになっている。やがて主伐材 者もいた。そして今は営々として育てた間伐 無資源国日本にとって唯一の再生産できる資 ないといわれても雲や霞を食って生きては けないのだ。 森林の公益機能は人間生存上欠か

何ともお人好しでバッカじゃなかろうか? でも山の人たちは怒らないで我慢している。 こに暮して山を守り緑を守っている人たちへ 分もしゃくの種である。 理解、 最近よく二十一世紀の地球という言葉を耳 市で生活している人たちの身勝手ない やれ鳥獣保護である。そこに住み、そ 思いやりの一かけらさえない。それ 口を開けばやれ自然

キャンペーンが始まり、森林基金がスタート 森林浴がマスコミの脚光を浴びた。グリーン と警告しているのだそうである。また今年は け、砂漠は増え続け、 にする。何でも、人間は増え続け、緑は減り続 念でならない。 発想の原点が都市住民から出ていることが残 廃し累が都市住民に迫って来たからであろう。 育林分収法が成立した。それは森林が荒 人類存亡の危機が来る

> 感さえあるのだ。 悪税の撤廃であり、 ている間がチャンスであって、時既に遅しの 基盤の整備である。 であり、 続税の改正であり、 それにも増して欲しいのは木材引取税なる 技術革新への挺子入れであり、 山村に体力と意慾が残っ 国産材加工流通の近代化 経営の存続を破壌する相 経営

> > この位落ちる所まで落ち

目醒めなく いくら 天は自ら助く

話し。若者に見捨てられた産業はやがて消え に使うべきであると思う。 いな事に使うエネルギーは国産材の体質改革 調整なんてできるはずがない。 すれば外材なんか敵ではない筈である。輸入 しているのだ。生産、 ルの人工林にはスギ、 変身できないものだろうか。一千万へクター る以外にない。何とか林業を輸出産業にまで に活気を呼び戻すには生産性の大向上をはか 私もそう思う。絶望から立ち上るには、林業 上し得ない産業も衰滅するといわれているし、 去る運命にあるといわれる。また生産性の向 ゲ時代がまかり通っているとは何とも情ない る。それにひきかえわが育林技術はチョンマ クノロジー産業、パソコン産業また然りであ 瞠目に値する。ロボット産業然り、バイオテ ヒノキが年々歳々生長 加工、流通の近代化を そんな夢みた

うだ。

の廃屋にこもる霊に別れを告げる時が来たよ

峰 浩 成

小

奥多摩町森林組合長・会員

一転他業界に目を向けるとその進歩躍進は 匹狼の木材関連業者といえども、 得べく全力投球すべきである。 と捨て去って外材、代替材との競争に勝利を なくてはうそだ。じっと我慢のおしん業界の てはうそだ。災転じて福となす知恵が結集し ればいくら保守的林家といえども、 る者を助くという。 れわれ林業人も依頼心はきれいサッパリ

来た。幾拾人、いや幾百人かも知れない、こ 忘れたがつるべ落しの秋の日は早や西山に傾 き首筋からひんやりとした冷気が忍び込んで あれやこれやと廃屋からのささやきに時を ∇ 体力にも限度はあるのだから。

憤りに足許の小石を思い切り蹴飛ばした。そ 森閑とした山の空気を引き裂いて遥か谷底深 消えて行った。 小石は庭先から勢いよく急坂を転げ落ちて よいしょと立ち上った私は突然いい知れぬ 驚いて昼寝の夢を破られた山兎が一羽

【写真・鶴野孝典・宮崎県】

V

森林保護と鳥獣保護は両立するか

志村富寿(司会)・「森林と野生鳥獣」というテーマで例会をすすめたいと思います。自然保護は自然が保護されてこそ意味がある。自然保護は自然が保護されてこそ意味がある。会員で自然環境保全審議会委員もされていた黒然に制度的に両立する条件があるのかどうかを獣は制度的に両立する条件があるのかどうかを獣は制度的に両立する条件があるのかどうかを表したいと思います。

私は、森林と鳥獣の保護は管理技術さえあれば両立すると考えております。日光の霧降高原はニッコウキスゲの大群落で有名ですが、シカが増えてきてこのキスゲの蕾を好んで食べてしまいます。地元では、観光資源であるシカもキまいます。地元では、観光資源であるシカもキまいます。地元では、観光資源であるシカもキまいます。地元では、観光資源であるシカもキまいます。地元では、観光資源であるシカもとがもなんとか殖したいと永年悩んできました。人登るリフトの周辺に犬が活動できるよう鉄線をあげています。

では動物保護に重点をおく営林署と森林を育て害鳥獣被害は各国ともあるらしく、イギリス

増えすぎているという説には私自身疑問です。

シカを追い込んでいくということではどうか。しょう。むしろ保護区をつくって、そこヘカモ

射殺してもいいと短絡的に考えてはならないで

に焦点をおいて話し合いたいと思います。たして森林と野生鳥獣は両立するか ―― その辺は困難」という前提であろうかと思います。果る営林署があるそうですが、その場合は「両立

狩猟制度の見直しも 黒木

を設けるという制度です。 黒木三郎 (会誌26の主張を補完する部分の要記としました)日本の法律は、「どこででの要記としました)日本の法律は、「どこででの要記としました)日本の法律は、「どこででの要記としました)日本の法律は、「どこででの要記としました)日本の法律は、「どこででの要記としました)日本の法律は、「どこででの要記とは対している。

日本では鳥獣は無主物で最初に占有した者の 一日本では鳥獣は無主物で最初に占有した者の という考えです。ヨーロッパなどではその逆で、鳥 う考えです。ヨーロッパなどではその逆で、鳥 がをうか基本的に、考えねばなりません。 いかどうか基本的に、考えねばなりません。 特猟は農山村の住民にとって蛋白源・防寒着 をいう考えで狩猟制度ができています。土地の ががどうか基本的に、考えねばなりません。 という考えでお猟制度ができています。土地の ががどうか基本的に、考えねばなりません。

共倒れになると考えられます。かどうかですが、鳥獣保護と森林が対立すれば思います。狩猟と森林や鳥獣保護とは対立する

られていいと思います。農業関係では、農業災 り、指導をすることは当然です。しかし、カモ という立場から防護策を森林所有者自身がやる ます。カモシカが出そうな所は植林すべきでな 関係には、これに対応するものが不十分です。 害補償法でカバーされていますが、森林・林業 対です。むしろ森林所有者の保険や共済が考え シカの被害に対して国家賠償という考えには反 被害は、カモシカが植林地に出てきて新芽を食 べきで、それに対して国や県が補助金を出した いし、被害の出る所では、自分の財産を守ると べるように仕向けた人間の責任だという気がし ようになってきたことは事実です。カモシカの ているかどうか、わかりませんが人目に触れる 鳥獣被害に入りますが、カモシカが増えすぎ カモシカは増えすぎているから間引のために

黒木三郎 氏

力 E シ カ限定地 域 で 長谷川

し上げたいと思います。 数は増えています。四○年代に青森県で農業被 二〇年に特別記念物に指定しています。その後、 四年狩猟獣からはずし、昭和九年天然記念物、 カモシカの数が少くなったということで大正 長谷川堯 カモシカ問題にしぼってお話し申

害が出て、それ以後、森林被害がでて、

国会で

で二〇倍になっているわけです。 和三〇年の三〇〇〇頭が事実としますと二〇年 とで五三年度まで調査しました。その結果、約 化庁が生態、環境庁が分布と生息数を調べるこ 庁で実態調査に入りました。林野庁が被害、 もしばしば問題になっています。 三○県で約七万五○○○頭という報告です。昭 そこで五一年に文化庁・林野庁と私どもの三 文

が整い、協議中が六カ所、残りについて今年中 物にしよう」と作業中です。 こうしたことをふまえて五四年度に三庁で協 カモシカ対策として「一四カ所程度の そこのカモシカだけを天然記念 今まで六カ所協議

> 域での捕獲は認めないが、その周辺の調整区域 予定です。この作業中は、 たら地域を限って特別天然記念物に指定し直す に文化庁の第一案がでて、協議を始めます。 としています。 ます。文化庁はその捕獲に対し三分の二の捕助 で被害が多ければ捕獲を認める運用でやってい 文化庁は、この作業が昭和五九年度中に終っ 協議の整った保護地

私どもの所管動物になります。 補助し、そのほか文化庁では忌避剤、 て個体数の調整ができるわけです。 せんが、被害が想定される場合は有害鳥獣とし モシカは一般獣になりまして、 トなどの防除対策について助成しています。 また、防護柵の設置事業がすすめられ三庁で 五九年以降新制度になりますと、区域外のカ 文化庁を離れて 狩猟獣にはしま ポリネッ

分布や生息数がどう変ったかという調査とカモ という駆除数算出の手引き、捕獲法やその管理 いうカモシカの密度で造林地被害が発生するか たいと考えています。このマニュアルではどう シカの「管理マニュアル」のようなものを作り 本年度から三カ年計画で、現在のカモシカの



長谷川 堯氏

法などをまとめることで作業しています。 問 われる管理技術

の技術が日本はうまくない。 それを適正にするには管理技術が必要です。そ 動物は生息に適した環境なら増えます。

所有者は自分の財産をカモシカ被害から守るべ うことです。天に至るまでの植える努力がカモ も覆うと木に虫がつくし、はずす手間も大変とい 有者で防護対策に難渋しています。ポリネット きだといわれましたが、被害者は零細な森林所 方で補償を求める裁判も起きる。 シカでやられるわけで誠に気の毒です。その一 黒木先生はカモシカは殺すべきでない、

ている。日本では狩猟家は自然保護の敵という に楽しませて税金をとり、 できない、という実情です。外国では、狩猟家 生けどりにしたカモシカがいても価格の算定が わけですが、それも射殺ではできない。かりに にでも使えると日本特有の動物ですから有益な 術は無いに等しい。捕獲して外国との動物交換 一方、捕獲というが、九九%が射殺、 個体調整もうまくし

こよ)゛ ない、)]][こりまえりにっ] 長谷川 私見ですが、わが国の鳥獣保護問題見方(笑い)もありますし税金も高い。

には①データーが少ない②国民の意識③狭い国には①データーが少ない②国民の意識の害がい方がいい。という感情があります。それに対し日本は、農耕民族であった故か、鳥獣の害がし日本は、農耕民族であった故か、鳥獣の害がし日本は、農村民族であった故か、鳥獣の害がして本は、農村民族であった故か、鳥獣の害がしてかかかかるという問題があります。

長谷川 ハンターの申請によるものです。隅谷会長 捕獲数は信憑性の高いものですか。

国として猟政官制度を

のは草食獣です。日本オオカミがいなくなったもいます。シマフクロなどそうですが。増える金田平 野生鳥獣は保護しても増えないもの

生物管理上コントロールは当然なのです。がオオカミの代りをしなければならない。野生からシカとカモシカが増えている。だから人間

軍のように保護団体もお手伝いします。自分の責任で何らかの対応をしてきた。補償が自分の責任で何らかの対応をしてきた。補償がの人は昔からシシオドシとかシシ垣などやっての人は昔からシシオドシとかシシ垣などやって

生態調査や管理マニュアルも、野生生物管理という立場でやってほしい。有害鳥獣駆除は一次産業がやればいい。野生生物管理の中でやるベきでコントロールは国が猟政官を雇ってやるべきでコントロールは国が猟政官を雇ってやるべきでコントロールは国が猟政官を雇ってやるべきではの中で、落ちこぼれ、を狙います。すると、集団は建康になりません。 野生生物管理という立場でやってほしい。有害鳥獣駆除は一という立場でやってほしい。有害鳥獣駆除は一とりません。

「三○億円かかる」といわれた。環境庁としては 長谷川 アメリカでは魚も入っていますが常 長谷川 アメリカでは魚も入っていますが常 動五○○○人、パートタイム五○○○人、予算七 ○○億円。日本では一三人、二億五○○万円 (笑い)。鳥獣保護員三○○名。鳥獣保護の ために目的税としての入猟税が都道府県に入り ますが、全国で二五億円ぐらいです。すぐ国で 猟政官をということは……。

打たない。効果は上らぬ。またハンターのモラ金田(ハンターに駆除をまかせてもカラスは

ルの問題もある。

友会から出たりという例も聞いています。 しハンターを養成しては――と思うのですが――。 金田 有害鳥獣駆除も環境庁なり県の人がついて鳥獣保護員をしているハンターにお願いするところもありますが。日頃、お世話になってるところもありますが。日頃、お世話になってるところもありますが。日頃、お世話になってが一。

森林所有者がやれるようにすればいい。森林所有者がやれるようにすればいい。を称猟法は、「すべての野生鳥獣は獲ってよく、これだけを保護しよう」という立場から二二年に「すべての野生鳥獣は保護して、これだけはでの土地で獲っていい」と変った。それなら、猟区も「すべての土地で獲っていい」から「ここで獲っていい」に変るべきと思います。その猟区設定を森林所有者がやれるようにすればいい。

でいますが、地方では保護団体の人はほとんど当り三~四〇〇〇円で出してもらえる人に頼ん詳しく、猟期は週二回以上でてもらって、一日せん。鳥獣保護員の委嘱は、地元の人で鳥獣に長谷川 森林と鳥獣は対立すると思っていま

け。私設猟区は集落が管理する猟区もできていまから実際はどうでしょうか。現在でも猟友会営から実際はどうでしょうか。現在でも猟友会営ています。非常に零細な森林所有が多いのですています。

追い払いか、調整か

黒木 猟区の中でのみ狩猟するようにすべき 第3方もありますね。 第3方もありますね。 第3方もありますね。 第3方もありますね。 黒木 猟区の中でのみ狩猟するようにすべき 素え方もありますね。

点がありまして……。 長谷川 基礎となる数が押えられていない弱原生林の数はチェックされていなかったろう。原生林の数はチェックされていなかったろう。 はい 動物としてその種が日本にしかいなか

然広葉樹林を保育育成する方が森林保護という然広葉樹林を保育育成する方が森林保護というでは、そこを伐採して追い出したのでなく、伐ます。天然林は草食獣にとって餌は少ないのでます。天然林は草食獣にとって餌は少ないのでます。天然林は草食獣にとって餌は少ないのでます。天然林は草食獣にとって餌は少ないのでます。天然林は草食獣にとって餌は少ないのでは、全国で三〇〇〇頭時私広葉樹林を保育育成する方が森林保護というな広葉樹林を保育育成する方が森林保護というな広葉樹林を保育育成する方が森林保護というな広葉樹林を保育育成する方が森林保護というな広葉樹林を保育育成する方が森林保護というな広葉樹林を保育育成する方が森林保護というないます。

で自然保護のことを考えないと、行政がいくらったも増えぬケモノの方が必配です。 金田 カモシカより、クマやサルなど増やその出 カモシカより、クマやサルなど増やそ 金田 カモシカより、クマやサルなど増やそ 観点からもいいと私は思いますね。

表谷川 三庁で問題もあるが努力しています。 長谷川 三庁で問題もあるが努力しています。 自然保護行政も、景観保護から出発し、 は物保護から動物保護へと進みつつあります。 をはから動物保護へと進みつつあります。 は物保護から動物保護へと進みつつあります。 は物保護から動物保護へと進みつつあります。

保護政策がとられるべきと思いますが。な」といえばそれまでですが ――。その意味でくることはまず不可能です。「そこに人は住む産力は簡単には上りません。自分たちで柵をつ産口侗迪 山村は限られた土地しかなく、生

長谷川

長野・岐阜のような急峻な山地で生

防除を考えるべきと申し上げたい。は必要です。しかし有害鳥獣被害は補償でなくかります。それに対し皆がまじめに考えることかります。それに対し皆がまじめに考えることかはます。

さない。ハンターは有害な鳥獣をとることで

志村 鳥獣管理のため政府が出すべき金を出

志村 昔の人は鳥や獣をとった。防除でもあ

金田 狩猟で野生鳥獣の管理をしたり、有害区分けしようとしている所に問題がある。 かんし生活の糧でもあった。今の行政はそれを

ショック死が大半。管理技術がない。 金田 麻酔銃で死ぬのではなく、捕えた後に耳を行政はもたぬ。

黒木 昔は被害を与える野生鳥獣はおどしだた猟犬でやると効果がでると思いますよ。 た猟犬でやると効果がでると思いますよ。 けどりにするのはどうしたら……。

長谷川 カモシカ十字軍は七ヘクタールを守った。草刈十字軍は九〇〇ヘクタールを守りまった。草刈十字軍は九〇〇へクタールを守りまった。草刈十字軍は九〇〇へクタールを守りまった。草刈十字軍は九〇〇へクタールを守いと思いますが、民有林はヘクタ林はやりやすいと思いますが、民有林はヘクタ林はやりやすいと思いますが、民有林はヘクタール以下というのが何万カ所もありました。とうございました。

情熱かきたてられた が緑の文明論

緑 の証 言 宮 脇 昭 著 (東書選書)

生態学から文明論

ている。 明論を展開し、さらにこれからの「森づくり」 ちになった。森林が荒廃している状況を伝え 多くの実例をあげながら次の世代のための文 本ではなく、 本書は、このことをわかり易く、しかも明解 影響を与えるだろうと考えていたからである。 の文化」といわれるなら、文化や人の心にも 食にされている現状に不満をもらしていた。 を通して都市や教育のあり方まで親切に教え に書いている。 何かあるはずだと思っていたし、日本が「木 を及ぼすことはよく知られているが、もっと 効用があるだけに、伐採すれば環境に悪影響 る新聞記事をみて嘆き、 た世界が、 森林が保水能力や大気浄化作用など重要な この本を読んで、 晴れてゆく時に感ずる明るい気持 生態学を基礎として素人向けに その意味で、単なる生態学の これまで霧に覆われてい 森林が木材産業の餌

ロ野球の解説を草野球の選手がするような 私は著者の学識さえ知らない門外漢なので

> る本である。 軽快な文章なので、 もので、 的外れは御了解いただきたい。 横になりながら気楽に読め ただ、

植 物と文明の 歴 中

思う。 げている。 を座右において時々写真を眺めている。 でに宮脇教授が編集した「日本の植生」 るので、 読者にとって何が書いてあるのかわからないと と反省を求めている。といっても要約し過ぎて 対しどのような影響を与えるか思い直すべきだ ているのに、共存者の植物が失われれば人間に 物の一員に過ぎず、しかも生物連鎖の中で生き が人間に破壊されている歴史を述べ、人間は生 本書は五章からなり、 実は現地調査の状況を興味深く書いてあ 是非読んでいただきたい。PRのつい 日本、ヨーロッパ、熱帯にある森林 歴史を第一章でとりあ なる本

植 物社会 0 シ ス テ ム

によって自然界の循環過程を説明しながら、 これが第二章で、 植物と動物と微生物の働き

であり、

直ちに水の使用を停止する態勢をとっ

何か悪い物が入ったことが確実

異常があれば、

た場合、

検査から洩れてしまうが、

もし小魚に

いた。水質検査では予想しえない毒物が混入し

て、フナ等の小魚を泳がせ、テレビで監視して

検査をしていたが、 学したことがある。

同時に小さな池に水を引い 水を化学的に分析して毒性 私は奥羽山脈の中にあるウィスキー工場を見

ている。 そして植物社会では、 ある植物を守る視点を確立する」必要性を説い の意識の問題でもある」と指摘し、これまでの 廃は同時に文化の問題、人間の心の、 ろう。次に一人間とのかかわり」で、自然の荒 長などと威張っておれないことを自認すべきだ くとも自然界の循環過程に何んの支障も生じな に対し警鐘を鳴している。思うに、人間がいな こともなく、 すみ分けて共存している姿を記述し、 間は自然界の寄生者であることを強調している。 いと批判している。そして、 いのであるから、 見科学的な態度は部分的な合理主義に過ぎな すみ分けの謙虚さもないダメ人間 人間は邪魔者であり万物の霊 植物同志が我慢しながら 「生態系の主役で 我慢する 地域集団

(弁護士)

ていた。この方法の方がより確実であるといていた。この方法の方がより確実であるとは疑いないが、われわれは、その限界を知ることも必要である。生態学も一つの科学であるが、著者が「生きもの」を「生きもの」としてグローバルに扱っている姿勢に、血の通った温さを感じたし、<生>は環境問題の原点であるといると感じたし、<生>は環境問題の原動力の表表に、この方法の方がより確実であるといると痛感した。

植物の現在

っても毒でないはずがない。生物が生きていけないような毒は、人間にとが、その時には完全に地球を汚染していた。ば、妙薬と高く評価されたDDTが生態系をば、妙薬と高く評価されたDDTが生態系を等具体的な例をとり上げて論じている。例え第三章で、森林開発、マックイムシ、ゴミ第三章で、森林開発、マックイムシ、ゴミ

あると。 あると。 かの単知をもって農作物をまちがいなく持分自身のことと考え生活していく必要がある。 の英知をもって農作物をまちがいなく持いなと共存していくという生物社会の掟を自な奴と共存していくという

という点に目を奪われ、路面を削って走行した脱着する不便がなく、凍結路で安全であるを脱着する不便がなく、凍結路で安全であるもそうである。金属ピンを約一○○本も打込も写国で問題になっているスパイクタイヤ

はその基本的な視点を教えている。他台砂漠と称される粉じんを発生させている。街間思慮深く行動しなければならないが、この本路樹への影響も心配されている。おれわれは一路樹への影響も心配されている。また脱スパイク対策として、塩害のおそれのある融雪剤(塩化カード)を大量に使用しようとしている。街間思慮深く行動しなければならないが、この本層思慮深く行動しなければならないが、この本間とはその基本的な視点を教えている。

自然と社会の調和

重要性を論じている。

電要性を論じている。

本書の楽しみに残しておきてあるさとに森づくり」では、どのようにしたいと思う。この章の考えを基本として、第五たいと思う。この章の考えを基本として、第五本が最も感銘を受け、共感を覚えた章である。

にはつけがある。四年前に中学校のPTA投員をしたが、その学校には戦後間もなく植れていた。手やや密生しているものの順調に育っていた。手がではしたが、その学校には戦後間もなく植ると学校当局に提言したことがある。 森林は人ると学校当局に提言したことがある。 本林は人ると学校当局に提言したことがある。 本林は人はおけがある。 四年前に中学校のPTとのにはわけがある。 四年前に中学校のPTとのにはわけがある。

る。

学生は受験競争の影響で目先のことに追われ、かず、人に沈着と寛大な徳を教える。最近の中慰す」と言われている。山はどっしりとして動「山は静かにして性を養い、水は動いて情を

受ける。 広い視野をもち長期的な展望に立った人間が少 の歳月を要する。 育てその子も風雪に耐え伐期になるまで五○年 枝打ち、 なくなったという。森林は植林してから下刈り、 聞 林が行われてきた。このことを子供達に語り、 森々として天にそびえる樹木を眺めることによ 林状況、 は、 り過ぎていると思う。新聞やテレビでみる情報 しかるに学校教育は伝統的に机上の学問に片寄 とであり、 もった大きな人物が育つのではないだろうか。 の比較、 実態、生態系、 材が山ほどある。植物、 と錯覚しているふしが多分にある。森林には教 は一見にしかず」ということが原点である。 また、 記者の目で選択された情報なのに生の事実 自然の営みの偉大さを知り、 間伐を何度も行って、わが子のように 勉強の出発点はまず自分の目で見るこ このような長期的な見通しのもとに植 地形、 木材の輸出入、森林の営む作用等があ 聞くことであり、 地質、 気温、 伐採による利益は次の世代が 地下水、 地温、市街地との植物等 微生物を含めた動物の 感じることで、 世界と日本の森 広い視野を 百百

に次第である。 た次第である。 た次第である。 に次第である。 に次第である。 に次第である。 に次のではないか。こんなふうに森 は感が育まれるのではないか。こんなふうに森 は感が育まれるのではないか。こんなふうに森 は必ずのことを考えていたので、本書によっ は必ずのととによって、豊かでバランスのとれた に変ぶことによって、豊かでバランスのとれた

産業としての林業

国民との接点求め

日と八月十日の二回、討論を行った。「産業としての林業」部会は、八二年七月三

「国民森林会議」設立のさいに本部会に付託の背遍性と特殊性、④国産材価格の国際比較、投資問題、②第一次産業問題と林業、③林業技投資問題、②第一次産業問題と林業、③林業技

かっただけに、発言の内容は明快かつユニークかっただけに、発言の内容は明快かつユニークかっただけに、発言の内容は明快かつユニークかっただけに、発言の問ではありあまるほど議論が展開されているにもかかわらず、国民一般がどのよされたので、その第一歩として、その解決の方向について国民全体に問いかけることが大切である。第一回の討論でこのような方向づけがなされたので、その第一歩として、第二回討論でされたので、その第一歩として、第二回討論でされたので、その第一歩として、第二回討論でされたので、その第一歩として、第二回討論でされたので、その第一歩として、第二回討論でされたので、その第一歩としては、日本と世界の森林・されたので、その第一歩として、年の解決の方には、日本と世界の森林・されたので、その第一歩として、第二回の討論を通じて、現場で実業や運動に携わる方々の参加が多いには、林業・林ところでこれらの課題については、林業・林ところでこれらの課題については、林業・林ところでには、大学に対している。

には、多くの点で眼から鱗の落ちる思いだった。であり、平素専門の域を出ることの少ない筆者

三つの視点から究明

介したい。 以下、討論の概要を、三つの柱に集約して紹

、国際経済と日本林業の将来

ダ・ソ連などの針葉樹生産と、アメリカを中心が大きいのは、何といっても、アメリカ・カナところで、日本林業の将来にとって最も影響

ドでは、カナダの最近の年伐量は成長量の五割 ろう。このように針業樹材の供給力は今後も現 まあてはまるから、ソ連材の輸入は増大するだ とくに最大の資源国ソ連と日本との間では、日 的に見て木材は供給超過ベースが続くだろう。 林は過伐だが、国内全体では成長が伐採を上回 あり余っている。アメリカでも太平洋岸の天然 バランスからみるとほぼシベリアの産出分だけ にとどまっているし、ソ連でも、同国内の需給 とする建築需要の動向とである。 在の水準を下回わることはあるまい。針葉樹資 に意欲的であるかぎり、比較生産費説がそのま し、ソ連が国民生活向上のため工業製品の輸入 本が先進国型産業構造の下で高い生産性を維持 わっている。従って二一世紀に入っても、世界 源欠乏論は、単純すぎる議論といえる。 まず供給サイ

度の一八○万戸を需要が上回わると、価格はまっている。ただし景気が回復して製材能力の限招き、これが日本に対する輸出圧の一要素となどの木材産業は過当競争に陥り、材価の低落をがの木材産業は過当競争に陥り、材価の低落を一方、アメリカの住宅着工数は、好況期は年一方、アメリカの住宅着工数は、好況期は年

を持することも重要である。に由来するこのような価格の激変に備える態勢た暴騰するだろう。アメリカの木材需給の体質

二 林業経営の契機

章林の生産期間は極端に長く、そのいみでは の御旗だが、林業は国民に対して何を供給し が、現在の林業家は木材を増産する必要性に疑 が、現在の林業家は木材を増産する必要性に疑 が、現在の林業家は木材を増産する必要性に疑 が、現在の林業家は木材を増産する必要性に疑 が、現在の林業家は木材を増産する必要性に疑 が、現在の林業家は木材を増産する必要性に疑 が、現在の本業な木材を増産する必要性に疑 が、現在の本業な木材を増産する必要性に疑 が、現在の本業など、そのいみでは

してゆくと思われるから、 後者の改善方向が見通せるのは東日本に限られ が強い。経営改善の方向としては一般に、 の針葉樹材需給の動向を考えると悲観的見通し 採算のとれる展望があればよいわけだが、 の具わった適地での特産物として成功が見込ま 材の生産費を引き下げることとがある。 の太刀打ちできぬ良質材をつくることと、一般 たせるための基本條件になるだろう。 とが、経済社会の枠組の中で林業経営を成り立 的役割について新たな国民的合意を獲得するこ れる域を出まい。とすれば、 もちろん用材を育てる林業経営がそれ自身で また前者も、今後の住宅は大壁造りへ傾斜 自然的·社会的条件 森林・林業の社会

重視するには及ぶまい。やはり森林が発揮する口が将来下降線を辿ることを考えると、あまりしかに社会的役割の一つだが、青壮年の労働人ところで産業としての林業の人口扶養力もた

助を受けることも認められるであろう。合意をとりつければ外部から継続的に資金的援ることは困難かもしれないが、ともあれかかるることは困難かもしれないが、ともあれかかるなが機能への関心が国民的合意形成の場とし公益的機能への関心が国民的合意形成の場とし

ただしこの論理を徹底すると国による森林管理が必要という結論になるが、それは非現実的である。山村の現場にあっては、住民が生計をである。山村の現場にあっては、住民が生計をである。山村の現場にあっては、住民が生計を高める努力がなければ、援助について国民的を高める努力がなければ、援助について国民的を高める努力がなければ、援助について国民的を高める努力がなければ、援助について国民的を高める努力がなければ、援助について国民的として外部から然るべき援助が受けられるような枠組を設定することが、基本問題ではなかろうか。

いかもしれない。

思われる。
思われる。
思われる。
とくに相続税には多くの問題がある。
最近のようならない。従って昨今の大面積皆伐の事例は、
ならない。従って昨今の大面積皆伐の事例は、
が多数が相続税を支払うためである。
とのような事情を政府に理解させることも、
是非必要と
思われる。

三 森林機能管理と森林組合

会後は林業の社会的役割は森林機能の維持管 とでできるだけ産業的色彩を具えた林業を運営 とでできるだけ産業的色彩を具えた林業を運営 とでできるだけ産業的色彩を具えた林業を運営 とでできるだけ産業的色彩を具えた林業を運営 すれば難点は大幅に援和されるはずである。個 けれども現状は、組合ががいして力量不足で あるうえに組合間の格差が大きすぎること、組 おい小規模林家は、組合に作業委託したがらな

とはいえ、従来一、二人の常雇を抱えていた合が多いうえに労働力が高齢化しているので、合が多いうえに労働力が高齢化しているので、日が多いうえに労働力が高齢化しているので、おれば委託しよう、という気持は強い。また森林組合の立場でも、従来の作業委託はこま切れ林組合の立場でも、従来の作業委託はこま切れ林組合の立場でも、従来の作業委託はこま切れがあがったが、近年は長期委託がふえ、事業とし的だったが、近年は長期委託がふえ、事業とし的だったが、近年は長期委託がふえ、事業としちが多いうなの条件に合った組合のサービス、すなとはいる、従来一、二人の常雇を抱えていたとはいえ、従来一、二人の常雇を抱えていたを辿っては最善の育林技術を展開するような姿を望っては最善の育林技術を展開するような姿を望っては最善の育林技術を展開するような姿を望っては最善の育林技術を展開するような姿を望ったい。

抜き森林・林政ジャーナル

地方新聞・この三ヵ月〉

七月

開拓へ(八月) 広島に百万本の市場」海山の間伐業者で市場■紀勢新聞「ヒノキ小径木を養殖イカダに−

鷲材の小径木を大々的に売り込む計画だ。 いうことで、 れることになれば百万本の売手市場になると 寄せられている。この開拓市場で全面使用さ とが分り、間伐材の市場開拓に大きな期待が ダにヒノキ小径木が大量に活用されているこ 魚養殖場として知られる広島県で、 関係木材業者の調査で、 されているが、 られるため、 合長) と紀北森林組合 朝日鳥取版「那岐山の杉林伐採待っ ヒノキ、スギの間伐小径木は需要範囲が限 緑守れと住民運動」 尾鷲地方でも山林の間伐が敬遠 業界では今秋から品質のよい 海山町森林組合 (長井武彦組合長)ら 全国一のカキ養殖や 28日 (野中茂樹組 養殖イカ た 尾 智

の意向を伝えていきたいとしている。 鳥取営林署は国定公園那岐山中腹にある広 鳥取営林署は国定公園那岐山中腹にある広 の意向を伝えていきたいとしている。 自取営林署は国定公園那岐山中腹にある広 の意向を伝えていきたいとしている。 の意向を伝えていきたいとしている。

八月

■岩手日報「4・27大火で焼失の民有林 県 新五八一 haを復旧へ」分収林方式を採用(1日) が五八一 haを復旧へ」分収林方式を採用(1日) 泉町などの民有林を県行造林、県林業公社造 泉町などの民有林を県行造林、県林業公社造 泉町などの民有林を県行造林、県林業公社造 なる。被災林家が木材不況で造林意欲に欠け する。被災林家が木材不況で造林意欲に欠け るため、公共機関が分収林方式で造林するも ので、林家から歓迎されている。

沿いの赤松ピンチ、松毛虫が異常発生(7日) これまでに十四人が機関造林を承諾している。 までの一切の維持管理を行う。 業公社が被害木の伐採から新植、 厳美溪の景勝が台なしになる」と早急な対策 いう悪循環で、 樹勢が弱ったところを松くい虫に狙われると 窓口となり、 を望む声が強い。 |岩手日報「厳美溪の景観守れ」||関||溪谷 機関造林は、林家が林地を提供、 い虫の被害に遭いピンチ状態になっている。 関市の名勝、 林家と話し合いを重ねた結果、 地元民からは「このままでは 厳美溪の赤松が松毛虫と松 各森林組合が さらに主伐 県や県林

指定。溪谷の約二キロ、三〇hに赤松四、五奇岩で知られ、昭和二年、国の天然記念物に厳美溪は、磐井川の上流に位置し、溪谷と

■東奥日報「白神山地ブナ原生林保護措置検った十本を伐倒、焼却処分にしている。気を高めている。ところが近年、松の樹勢が気を高めている。ところが近年、松の樹勢が百本があり、奇岩と松の好対照が観光客の人

視察団25日に来県

青秋林道建設中

17

日

9月

原生林の立法措置を含めた保護対策を検討し原生林の立法措置を含めた保護対策を検討し、社会党)、福島要一日本学術会議自然保護研集する。二十七日までの日程で青森、秋田両県する。二十七日までの日程で青森、秋田両保護議員連盟事務局長の岩垂寿喜男代議士任護議員連盟事務局長の岩垂寿喜男代議士白神山地のブナ原生林保護のため国会自然

消滅も心配されるとして視察団一行は、 ってブナ樹海が分断され、 青秋線の建設に着手した。この林道建設によ 田県八森町を結ぶ全長二十八キロの広域林道 林を縫って昨年から林野庁が、 広がりをもつ全国有数の森林資源。 ある白神山地のブナ原生林は約一万五千mの 面に強く求めていくことにしている。 環境保全地域の指定など保護対策を関係各方 山地の原生状態を調査。 岩木川、 赤石川、 追良瀬川などの源流域で .環境保全法に基づく ブナの原生流域の 西目屋村と秋 この原生

中止を要請することにしている。

青森営林局経営部長と会い、

青秋林道の建設

秋田営林局長、

れるため、

一行は両県幹部、

建設によって貴重なブナ資源の消滅も心配さ

ていくことになった。

また広域林道青秋線の

ヒノキ備林からご用材が切り出されている。 ヒノキの銘木どころ。 遷宮以来二十年どとのご遷宮には、この木曽 千五百立方mが伊勢神宮に陸送されている。 営林署は五十三年から伐採にかかり、すでに 七百立方mは木曽ヒノキ備林から搬出。付知 木が一万立方m伐採されるが、このうち二千 急斜面の山で、 百mから千八百mに広がる七百八mの山林。 付知営林署61年には"御舟代木" 樹齢は三百五十年―五百年で、直径は一・二 m─六○㎝の大径木の銘木ばかり。伐採は六 古式にのっとり切り出される。 る樹齢五百年の御舟代木(みふなしろぎ)が ご遷宮用材の中心的行事である御神体を納め 十三年まで続けられるが、六十一年六月には、 六十八年のご遷宮には、 日本三大美林に数えられている木曽ヒノキ 裏木曽といわれる加子母村の標高八 平均気温一三度の場所のため 明治二年の伊勢神宮で 国内のヒノキの銘 23日

九月

■山陰新聞「臥牛山の木を切るな、ふもとの五町内会、市へ再び陳請書」(14日) 五町内会、市へ再び陳請書」(14日) 五町内会、市へ再び陳請書」(14日) 七川上市長、小坂県議会議長あてに提出した。 を川上市長、小坂県議会議長あてに提出した。 を川上市長、小坂県議会議長あてに提出した。 松山城周辺の樹木伐採問題は今年五月、日本一高い山城が周囲の木立に隠れて市街地か 松山城周辺の樹木伐採問題は今年五月、日本一高い山城が周囲の木立に隠れて市街地か を川上市長、小坂県議会議長あてに提出した。

> 考えてほしい」と要請。 考えてほしい」と要請。 考えてほしい」と要請。 考えてほしい」と要請。 の一人は「観光面でいえば駅前から城が見えの一人は「観光面でいえば駅前から城が見えるところがある。国道を走るドライバーが城るところがある。国道を走るドライバーが成るところがある。国道を走るドライバーが成るところがある。国道を走るドライバーが城見えるようにならないものか」といった声が

案登録もとり、本格的生産、販売に乗り出す。 京林には欠かせない間伐。二戸郡一戸町諏 育林には欠かせない間伐。二戸郡一戸町諏 道のないこの間伐材を利用して、健康丸棒座 道のないこの間伐材を利用して、健康丸棒座 道のないこの間伐材を利用して、健康丸棒座 が保たれる―と、評判もよく、この程実用新 が保たれる―と、評判もよく、この程実用新 が保たれる―と、評判もよく、この程実用新 が保たれる―と、評判もよく、この程実用新

聞き使用したタクシー運転手ら長時間坐って 試したところ具合いがよかった。これを伝え このため丸棒を利用したら — と思いたち、 るため座席の上に板を敷いたが汗をかいた。 ことし六月、トラックを長距離運転中、疲れ 材を使って改良を加え、 使えない太さ五 いる人たちからも大鼓判を押され、早速間伐 を三㎝程の太さの丸棒に加工、 沢村さんが丸棒座布団を作ったきっかけは、 材料はカラマツと杉の間伐材、住宅用には 実用新案登録を申請、 やや長方形に接着剤で張り合わ 四〜六四 七月初めには特許庁 先ごろ認められた。 から一〇四の小径木 長さ三五四は

厚、河川整備の遅れも(26日)に一挙五百ミリ」伐採地から大被害、人災濃鰮北海道新聞「登別に記録的集中豪雨、未明せ、中に木のしんを入れて補強している。

決壊、 となっているようだ。被害が最もひどかった そのキバをむき出した。今回の集中豪雨禍は 登別市を襲った集中豪雨は、三年前と同様に 登別東町地区では、 伐採したのは道路巾の部分で「洪水の原因が なことにはならなかったはず」と口をそろえ 今年五月に伐採された。山に木があればこん 路の延長工事にともなって、付近の山の木が た。 速道路の延長工事にともなう山林の伐採や河 伐採にあるとは思えない」としている。 る。工事を担当している関係者の話によると、 |||岩手日報 「参加八千人 時に大量に降った雨が主要因とはいえ、 整備の遅れなど、 二十四日夜半から二十五日未明にかけて、 住民たちは「山を縫うようにして進む道 その大量の土砂が付近の民家を直撃し 道路が約五百mにわたり 防災対策の手薄さも一因 併催行事も 高 来秋

の全国育樹祭県実行委が決める」(27日) は、 会は二十六日、 催される第八回全国育樹祭の県実行委員会総 陛下の植えられた赤松を、 の主要行事は、四十九年の全国植樹祭で天皇 招待者が六千五百人の計八千人。育樹祭当日 加者や併催行事などを決めた。参加者の内訳 祭記念の森の赤松の枝打ちや施肥などをする。 来年秋に岩手郡松尾村寄木の県民の森で開 中央および県外招待者が千五百人、県内 施肥をされる。 県庁特別会議室で開かれ、 また、 参加者は全国植樹 皇太子ご夫妻が整

渦中の人として ″お上』 告発

運命の風景

題にかかわって以来、杉並木・小倉山開発・太新聞記者として二〇年前に日光の太郎杉問済評論社一五〇〇円)を出版しました。済評論社一五〇〇円)を出版しました。国民森林会議の発起人で幹事の志村富寿さ

志村 富寿

を告発しているのです。い誤り」(二・三ページ)を侵している行政便性のみを言って開発……取り返しのつかなが風景の貴重性を無視し、道路の経済性、利量化が無理なことをさいわいとばかり、行政

を通じ日本人のお上意識の強さを感じた」もその一人」(大意)とのべ「自然保護運動なら、戦火を退け撤退した幕府方の大島圭介なら、戦火を退け撤退した幕府方の大島圭介にも「板垣が日光の戦火を避けた恩人という

に身を投じているだけに核心をつく記述です。ら日光の自然を守る会の会長としてその渦中

本書は日光の問題を通じて「風景価値の計

保護の動きを追っています。六年前からは自郎杉・奥鬼怒スーパー林道と日光をめぐる自然

います。(九三ページ)ように民衆側の問題も促えて

志村さんはゴリゴリの自然保護でなく「風 という総合された美を考える場合は(機能・ 景との)二者択一でなく、全体としての調和の 中での判断が大切」(六五ページ)とのべて 中での判断が大切」(六五ページ)とのべて いるようにバランス感覚の秀れた持主。「美 しい風景を守ることはその国の文化レベルを 示すもののように思えてならない」(一五ペー ジ)「文化財を荒したままに放置し、その対 ジ)「文化財を荒したままに放置し、その対 ジ)「文化財を荒したままに放置し、その対 が入ったりない。 という思いを目 で恥かしい」(四七ページ)という思いを日 大をめぐる数々の事実を借りて鋭く提出して いるのです。

肉体労働の技術の現代的意味を問う

秋田杉

野添 憲治

ています。の山林の労働の実態についての記述に使われ

された素晴らしい民衆の知恵が、技術となっされた素晴らしい民衆の知恵が、技術となったは機械化作業が進めば進むほど、忘れてはは機械化作業が進めば進むほど、忘れてはしてとらえないで欲しい。この肉体労働の底してとられないで欲しい。この肉体労働の底してとられないで欲しい。この肉体労働の底してとられた素晴らしい民衆の知恵が、技術となったれた素晴らしい民衆の知恵が、技術となったれた素晴らしい民衆の知恵が、技術となったれた素晴らしい民衆の知恵が、技術となった。

野添さんが、先日まとめて発行した『土と暗梁』が近代農政が農村に何を残したか――を農村の実態の中から衡いたものとすれば、ですが、「身近で大きな存在としての秋田杉ですが、「身近で大きな存在としての秋田杉としているように思います。題名は『秋田杉』としているように思います。題名は『秋田杉』とが可能」(秋田杉の歴史・四五ページ)なるとが可能」(秋田杉の歴史・四五ページ)なるとが可能」(秋田杉の歴史・四五ページ)なるというに、「土というなどが、

ものいわぬ『歴史の証人』追う写真

巨樹の顔

八木下 弘

ます。二一センチ×二五・七センチの大版にを代表する巨樹・古木六○本が収められてい本書には高知県の「杉の大スギ」など日本

いたすとき、われわれの文明は、一本の巨樹木が、見る人に「ものいわぬ歴史の証人」(あとがき)として迫ってきます。「(巨木の今とがき)として迫ってきます。「(巨木の今とがき)として迫ってきます。「(巨木の今とがき)として迫ってきます。「(巨木の今とがき)として迫ってきます。「(巨木の今とがき)が、見る人に「ものいわぬ歴史の証人」(あ

す。という語りかけが写真から聞こえてきそうでさしかかっている」(あとがき、牧野和春氏)を見るにさえ、心して見ねばならぬところに

会の動き

第10回幹事会(10月1日)

1.報告事項 萩野(オブ・宮口、土田、各評議員) 出席者 (敬称略)隅谷、大野、志村、田中

② 出版企画について
① 「国民の森林を考える」関西シンポジウ別催要領について
開催要領について
・ 国民の森林を考える」関西シンポジウ 2. 協議事項

9月17日実行委員会決定を承認(内容省略)9月17日実行委員会決定を承認(内容省略)

幹事一人十人の会員候補を出して呼び(1) 会員拡大について) その他

② 総会準備について 会員)を働きかける。

1 84年2月25日出に開く総会にアピー1 84年2月25日出に開く総会にアピールを出するとにし、大野、杉本、田中幹ルを出すると同け全会員から意見を求める。 2 総会に向け全会員から意見を求める。 2 総会に向け全会員から意見を求める。 84年1月21日出 第11回幹事会等の日程について 84年1月21日出 第11回幹事会等の日程について 84年1月21日出 第1回幹事会等の日程について 84年1月21日出 第1回幹事会等の日程について

関西シンポジウム(敬称略) 関西シンポジウム (敬称略) 2月9日 現地実行委(半田・中川・野村) 11月18日 現地実行委準備会(半田・平田・中川・野川・頴川・野村・オブ志村) 11月2日 現地実行委準備会(半田・平田・中川・野村・オブ 萩野・真砂)

四○円の寄附をいただきました。 (12月9日開催)より当日の清算金一二万三○ 参寄附▲ 志村富寿さんの出版をお祝いする会



後編 己集

○…関西シンポの熱気にあてられて、只今で深謝します。 成功のため協力下さった方々りつづけているしだい。シンポ後京都市の米りつづけているしだい。シンポ後京都市の米りつづけているしだい。シンポ後京都市の米

○…このところ会員、購読会員の出版があいついでいます。『テレビよ、驕るなかれ』でおれて』(労働教育センター・浅香仁)。津ずねて』(労働教育センター・浅香仁)。津ずねて』(労働教育センター・浅香仁)。津ずねて』(労働教育センター・浅香仁)。津ずねて』(労働教育センター・浅香仁)。津でおいています。『テレビよ、驕るなかれ』の一次でいます。『テレビよ、驕るなかれ』の一次では、

森林の未来を憂えて

- 国民森林会議設立趣意書

森林を伐りすぎたため、水資源の不安が強まっています。 日本の風景の象徴である松林が枯れつづけています。近年、台風や豪雪で各地の山林が大きな被害をうけました。また、

大規模に造林を進めたにもかかわらず、その手入れはなおざりにされています。 一九六〇年代の高度経済成長のもとで、人びとは農山漁村から大量に都市へ流出しました。とくに林業の分野では、戦後

とに暗いといわねばなりません。 日本の森林は、いま病んでいます。このままではわが国の文化を育んできた森林・山村はさらに荒廃し、その未来はまこ

一、二一世紀初頭までには、地球上の森林の二割が失われるといわれています。人類にとって重要な機能をもつ森林に、私 このような現実を見すごしてよいのでしょうか。いま私たちは、次のような課題の解決を迫られていると思います。

たちはどのように活力を与え、守り育てていくべきでしょうか。

一、森林は、林業にかかわる人びとによってこれまで辛うじて支えられてきました。このままでは、その担い手を失う日が 近いのではないでしょうか。

一、山村に住み、林葉で働いている人びとと、都市に住む人たちとはどのように手をにぎり合えるでしょうか。 一、いまみられる民有林や国有林の危機的状態は、どのようにして克服することができるでしょうか。

一、いま、わが国は、木材需要の七割を外材に依存しています。森林資源の枯渇する中で、開発途上国の森林にどのように かかわるべきでしょうか。

子孫に残すために、日本の森林はどうあるべきか、いまこそ国民的合意を高める必要があります。 私たちは、以上のような国民的立場から、将来の森林や林葉、山村のあり方を方向づけ、提言としてまとめ、その実現を このような森林をめぐる諸問題の解決は、決して林業関係者だけにゆだねておくべきではありません。美しい国土と緑を

期したいと思います。このためには、広い視野と長期の展望に基づいた英知の広範な結集がぜひ必要です。 を望んでやまない次第です。 そこで「国民森林会議」を設立し、広く国民・政府に訴えることを決意するに至りました。多くの方々のご賛同とご加入

一九八二年一月九日

季刊 国民と森林

1984年新春号 第7号

- ■発 行 1984年1月1日
- ■発行責任者 隅谷三喜男
- ■発行所 国民森林会議 東京都港区赤坂1-9-13 TEL03(583) 2 3 5 7 振替口座 東京2-70096
- ■定 価 1,000円(〒共) (年額 3,000円)